

羅針盤

創刊号

平成21年4月10日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

ごあいさつ

岡山県総合教育センター
所 長 木 多 信 俊

吉備高原に岡山県総合教育センターが開設されて三度目の春が訪れました。
この度、津山教育事務所から異動になりました木多でございます。教職員研修講座や、学校への訪問支援など「学校力」「教師力」の向上につながる学校支援の拠点として、県民の皆様方からの期待に応えるべく努力してまいりたいと考えております。

このため、

- ・ 岡山県の教師力は、岡山県総合教育センターが担っているという気概を持ちます。
- ・ 平成21年度(2009年度)岡山県総合教育センターはチームとして一つになり、総力戦で行動します。



5つの行動

- (1) 届けます～Webページやメールで学校経営や、教科教育、生徒指導、特別支援教育、情報教育等の教育指導情報を積極的に発信します。
- (2) 出かけます～学校力向上サポートキャラバン事業として研修会へ出向きます。学校へ、市町村教育委員会へ、教育事務所へ。
- (3) 支援します～いじめ、不登校への対応、学力向上に向けたカリキュラムサポートなど校内体制づくりを支援します。
- (4) 提案します～学校経営、学級経営、授業モデルなど学校の実践に参考になる研究成果を提案します。
- (5) 磨きます～支援の拠点として、専門性の向上、人間性の向上に向けて所員自らが切磋琢磨していきます。

できるところから 一歩ずつ

- ・ 私たちは、すべての児童生徒の笑顔のために、自らの笑顔からスタートします。
 - ・ 私たちは、フットワーク軽く、できるところから実行します。
 - ・ 私たちの願いは、学校力・教師力の向上です。
- 職員一同、力を尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

「羅針盤」創刊にあたって

この度、倉敷青陵高等学校から着任しました松沢です。

よろしくお願いいたします。



さて、岡山県総合教育センターでは、今年度から「岡山県総合教育センターだより羅針盤」を、原則として毎週金曜日、各学校にお送りします。

各学校・園の教育活動に役立つ、時機に合った教育指導情報をお届けしたいと思いますので、先生方に活用していただければ幸いに存じます。

Webページがさらに充実



キーワードで探せる研修講座情報、さまざまな教育情報を発信する各教科・領域のページ、年々充実する学習指導コンテンツなど、「使える」情報を積極的に発信します。ぜひご活用を！

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

羅針盤

第2号

平成21年4月10日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

授業改革への提案

平成19・20年に行われた全国学力・学習状況調査において、本県では、「自分の考えをもち、それを表現する力」の育成に課題があることが明らかになりました。そこで今回は、これらの課題を解決するための小学校国語科と算数科の授業改革の視点についてご提案いたします。

小学校国語科 表現する力の育成を重視した授業改革を！

■本県の国語科の課題■ 全国学力・学習状況調査の結果から

- 文章やグラフから必要な情報を取り出しながら読むこと
- 理由が分かるように自分の考えを書くこと
- 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をすること

これらの課題を解決するためには、児童の国語に対する関心を高め、「目的に応じて必要な情報を読み取り、表現する力」の育成を目指した授業づくりを行っていく必要があります。

■授業改革の視点■



- 視点1 叙述を手がかりに豊かに想像させる 〈文学的な文章〉
- 視点2 表現の工夫について、自分の考えをもたせる 〈説明的な文章〉
- 視点3 書くことは楽しいと実感させ、書くことへの抵抗感を軽減する

☆指導計画作成に当たっては、表現活動を単元の中心に位置付け、具体的な言語活動を通して、指導事項を指導することができる計画を練ることが大切です。

小学校算数科 算数的活動のより一層の充実を！

■本県の算数科の課題■ 全国学力・学習状況調査の結果から

- 数量についての感覚を身に付けること
- 自分の考えを判断の根拠を示しながら説明すること
- 生活や学習に知識・技能を活用すること

これらの課題を解決するためには、算数的活動をより一層充実させ、基礎・基本の確実な定着と表現力や活用力の育成を目指した授業づくりを行っていく必要があります。

■授業改革の視点■

- 視点1 数量や図形の感覚を豊かにすること
活動例：量の見当付けをする活動
- 視点2 考えを分かりやすく説明する活動を重視すること
活動例：考えを図や式などで表し、説明する活動
- 視点3 既習事項の活用を意識付けること
活動例：日常生活の中から学習内容を用いる事象を探す活動

☆算数的活動については、三つの授業改善の視点に沿った活動を各校で工夫することが大切です。



(担当・教科教育部)

羅針盤

第3号

平成21年4月17日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

授業改革への提案

平成19・20年に行われた全国学力・学習状況調査において、本県では、自分の考えを説明する設問において無解答率が高い傾向にあることが分かりました。そこで、今回は、第2号の小学校版に引き続き、中学校国語科と数学科の授業改革の視点についてご提案いたします。

中学校国語科 自分の考えを表現する力の育成を重視した授業改革を!

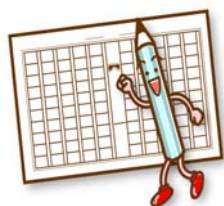
■本県の国語科の課題■ 全国学力・学習状況調査の結果から

- 根拠を明確にして自分の考えを説明すること
- 必要な情報を取り出し、条件に合わせて書く
- 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行うこと

これらの課題を解決するためには、生徒の国語に対する関心を高め、「目的に応じて必要な情報を読み取り、表現する力」の育成を目指した授業づくりを行っていく必要があります。

■授業改革の視点■

- 視点1 自分の考えをもち、根拠を基にそれを表現する活動を充実させる
- 視点2 書く活動を充実させ、書くことの意義を実感させる
- 視点3 複数の情報を比較して読むなどの言語活動を効果的に取り入れる



☆授業づくりに当たっては、生徒の主体的な表現活動を単元を中心に位置付け、生徒の実態に応じた言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが大切です。

.....

中学校数学科 基礎・基本の確実な定着と表現力や活用力の育成を!

■本県の数学科の課題■ 全国学力・学習状況調査の結果から

- 言葉や数、式、図などを用いて自分の考えを表現すること
- 数や図形の性質を予想し、その性質が成り立つことを説明すること
- 事象を数学の問題としてとらえ、その解決のために数学を活用すること

これらの課題を解決するためには、次の二つの授業改革の視点をもち、数学的活動をより一層充実させる必要があります。

■授業改革の視点■

- 視点1 基礎・基本の確実な定着のための三つのアクション
 - ・ 意味理解を伴った指導を行う
 - ・ 「学び直し」の視点をもつ
 - ・ 授業を家庭学習につなぐ
- 視点2 表現力や活用力の育成をするための三つのアクション
 - ・ 数学的に説明し伝え合う活動を取り入れる
 - ・ 既習事項を活用する場をつくる
 - ・ 振り返る活動を重視する

☆授業づくりに当たっては、これらの数学的活動を取り入れて、表現力・活用力を育成していくことが大切です。



(担当・教科教育部)

羅針盤

第4号

平成21年4月24日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校における情報モラル教育と 家庭・地域との連携

すべての学校で情報モラル教育を実施する必要があります。そして、家庭・地域との連携なしに情報モラル教育の効果は期待できません。今回は、平成21年3月に文部科学省が発行した「教育の情報化に関する手引 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)」の内容を踏まえて、各学校で情報モラル教育を推進する上での留意点について話題にします。

情報モラル教育の意義・必要性

「情報モラル」とは、「情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度」のことです(小・中学校学習指導要領解説総則編・道徳編)。情報モラル教育のねらいは、情報化の「影」の部分を理解することだけではありません。情報社会の一側面として影を理解した上で、よりよいコミュニケーションができること、変化し続ける情報手段を上手に賢く使える判断力や心構えを身に付けること、…。情報社会へ積極的に参加し、よりよい社会のために貢献できる人材を育てることを目指す教育です。

情報モラル指導には様々な内容がありますが、例えば先生が「一回説明するだけ」で子どもに望ましい態度が身に付く、というものではありません。道徳の時間等に1単位時間の授業を行う、各教科等の中で指導するタイミングを設定する、日常的に繰り返し指導する等、学校を挙げて教えることが大切です。このことにより、子どもだけでなく保護者の関心も高めることができ、指導の効果が上がります。

まずは1単位時間の授業から

学習指導要領解説総則編には、一方的に知識や対処法を教えるのではなく、子ども自ら考えることを重視した学習活動を行うように示されています。

紙面の都合で、ここでは道徳の時間や特別活動等を使った1単位時間の授業についてのみ触れます。

一番のオススメは、「ビデオ教材」を活用した授業です。「コンピュータを使って指導するもの」と思いません。普通教室で、それぞれの先生がお持ちの指導スタイルを生かして、子どもが情報の送り手・受け手両方の立場でしっかり考える授業を実施しましょう(右上<1>の教材群参照)。

- <1>すべての教員が情報モラルを指導するための授業実践パッケージ(岡山県総合教育センターが提供する「ビデオ教材を活用した授業」のための教材群)
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/jyoho_kyouiku/moral/index.html
- <2>やってみよう情報モラル教育(文部科学省委託事業 情報モラル指導ポータルサイト)
<http://www.japet.or.jp/moral-guidebook/>
- <3>キッズケータイ活用プロジェクト(良質のビデオ教材等が無償で手に入るサイト、2009年2月に各校へ案内済み) <http://kids-ktai.jp/index.html>

学校・家庭・地域の連携

子どもが携帯電話等を通じてトラブルに巻き込まれたり関わったりする事例の多くは、保護者が通信サービスを契約する際に利用の仕方等をいっしょに話し合ったり確認したりしていないことに起因しています。情報モラル指導の必要性を保護者にも理解してもらうことが、効果を生むための必須条件です。

最も有効な啓発のタイミングは、学校で子どもに対して情報モラル指導を実施したときです。授業の様子や家庭での留意事項を学級・学年通信等に掲載して家庭へ配付するだけでも、伝わりやすくなります。その前後で簡単な実態・意識調査等を実施して授業や啓発に生かすと、いっそう効果は高まるでしょう。

学校・家庭・地域が連携し、研修会等を開催することも有効です。地域を挙げて、子どもがトラブルに巻き込まれることを防ぐ意識を高めることに結び付くからです。NPO団体、携帯電話事業者、警察等が講師を派遣する事業を行っています。

■保護者に対する先生からのアドバイス

携帯電話の所持は保護者が判断することです。家庭の事情によって意識も様々であることは、留意しなければなりません。ただし、「携帯電話は玩具ではありません。保護者が契約し、子どもに貸与するものです。たとえ高校生でも、保護者は子どもの利用に関してしっかりかわりを持つべきです。」という主旨のアドバイスは、積極的に行ってください。

(担当：情報教育部)

羅針盤

～学級づくり～



新学期が始まり1ヶ月が経ちました。学級づくりのスタートはどうでしょうか？今回は生徒指導の視点から学級づくりを考え、学級担任として特に意識しておきたい点について、新学習指導要領総則「生徒指導の充実」の内容を踏まえてご紹介します。



生徒指導の充実のための基盤

学校では、学年や学級など集団での活動や生活がほとんどです。集団の中での人間関係の在り方は、児童生徒の健全な成長と深くかかわっています。

- 一人一人が集団の中で自己の存在を認められる感覚を持つことができる。
- 温かく共感的な人間関係をはぐくみ、自己実現を図ることができる。

このような学級づくりを行うことは、さまざまな生徒指導上の問題を未然に防ぐための教育的環境を整えることになり、生徒指導を充実させるための基盤といえます。

また、学級内の人間関係が良好であることは、学級の中での個人の適応を考える上でも大変重要な要素です。学級の仲間に受け入れられていると感じ、「学級が楽しい」という感覚が生まれると、学級への所属意識が高まるとともに、学級での自分の居場所が保障され、児童生徒の心理的な問題を予防することにもつながります。



学級づくりで意識したいこと

近年、児童生徒を取り巻く環境の変化は著しく、人間関係の希薄化や望ましい人間関係を作るスキルの未熟さから、望ましい集団が育ちにくくなっている現状があります。そこで、次の三点を踏まえながら、教師が学級の人間関係づくりに積極的に取り組む必要があります。

- 自分や友達のよさを発見できる機会を意図的、計画的につくる。
- 安心して自分を表出できるような雰囲気づくりを心がける。
- 一人一人が学級や友達関係の中に自分の居場所を見付けられるようにする。

最近では、対人関係ゲーム、構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニング、アドベンチャー教育等の活用が広まっています。もちろん、それらを使えばすべてうまくいくというわけではありません。指導する教師の姿勢や学級の状況に合わせた使い方ができるかが効果を左右するので、まずは教師自身が体験することがとても大切です。

生徒指導部ではこれらの手法を体験的に学べる研修を、生徒指導・教育相談研修講座基礎コース（岡山県総合教育センター案内P61）で実施しています。同じ課題意識を持った先生方と一緒に体験を通して学び、自身の生徒指導と学級経営のスキルアップに挑戦してみませんか？

（担当・生徒指導部）



平成20年度生徒指導・教育相談研修講座
基礎コースから

羅針盤

第 6 号

平成 21 年 5 月 15 日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校教育の充実につながる特別支援教育

「特別支援教育」は、①障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、「適切な指導及び必要な支援」を行う教育であり、②特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する「全ての学校において実施する教育」であり、③障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる「共生社会の基礎となる」もので、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている教育です。〈H19.4.1 文部科学省「特別支援教育の推進について(通知)」〉

特別支援教育の推進は、学校教育の充実、具体的には「確かな学力」「豊かな心の育成」につながります。特別支援教育への転換がなされて2年が経過した今、各学校の推進状況はいかがでしょうか。

①適切な指導及び必要な支援

適切な指導及び必要な支援を行う教育を実践するためには、客観的で正確な実態把握から導き出された個別の指導計画の作成が必要です。

通常学級に在籍する幼児児童生徒の個別の指導計画の作成には、対象となる幼児児童生徒だけでなく、クラス全員にとってメリットがあるという報告が各校の実践からなされています。メリットとして、以下の事が挙げられます。

- 指導の重点、方向性が明確になる。
- 校内での共通理解が得やすくなる。
- 教師の幼児児童生徒一人一人を見る目が深まり、それが学級経営に生かせる。
- 個別の支援は、クラス全員に有効である場合が多く、結果として分かりやすい授業になる。

～個別の指導計画の様式について～
個別の指導計画の様式については特に規定はありませんが、岡山県教育庁指導課特別支援教育室が作成した『特別支援教育サポート事業ハンドブック』が参考になります。特別支援教育室のWebに掲載されています。

②全ての学校で実施する教育

「特別支援教育」は、発達障害等の診断が無くても、特別な支援が必要とされる幼児児童生徒が在籍する全ての学校で実施される教育です。平成20年度の岡山県の調査によると、各学校で把握している通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の割合は、小学校 6.1%、中学校 3.1%、高等学校 1.9%でした。高等学校の場合、非行や不登校など、生徒指導上の問題の背景を分

析すれば、数値が高くなる可能性があります。

「特別支援教育の推進について(通知)」では、校長の責務として、特別支援教育実施の責任者としてリーダーシップを発揮しつつ体制整備等を行い、組織として十分機能するよう教職員を指導することが示されています。また、特別支援教育に関する学校経営が求められています。

～校長先生のリーダーシップについて～
特別支援教育は、組織としての支援を行う教育です。したがって、校内委員会等が機能するように努めることが必要ですが、そのためには、困った時には一人の教師が問題を抱え込むのではなく、いつでもお互いが相談できる雰囲気づくりが大切になります。

③共生社会の基礎となる教育

発達障害のある幼児児童生徒の場合、周囲の環境(家庭・学級集団等)によって、学習活動への参加が大きく左右されます。個々の違いを認め合うことのできる集団では、持てる力が発揮でき、学習活動への参加がしやすくなります。しかし、冷やかしいいじめを行う集団では、学習活動への参加ができにくくなります。(二次障害)

特別支援教育の推進には、すべての人々が障害のある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識を深めることが重要になります。

～人権教育と特別支援教育～
岡山県人権教育推進プランでは、人権教育は「すべての人々が社会の一員として互いに尊重し支え合いながら共に生活する『共生社会』の実現」を目指しています。特別支援教育の推進は、人権教育の推進にもつながります。

通常学級における特別支援教育の具体例

～ 岡山県総合教育センタープロジェクト研究

「通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり」からの抜粋 ～

明確なルールへの提示例

言葉のみだと、聞いて理解するのが苦手な子どもにとってはルールを守ることが困難になります。集団生活でのルールを文字や絵で明確にする支援が必要となります。



声の大きさを絵で提示



帰る前のチェック



学習前の準備を見える写真で提示

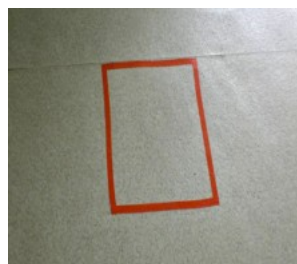


教室環境の工夫例

給食や清掃、係り活動などにスムーズに取り組むためには、位置を明確に示した以下のような支援が効果的です。



置き場所を明確に示す
(エプロン・うわぐつ)

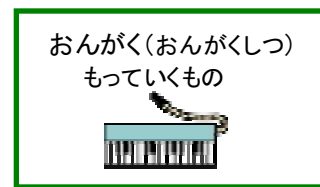


ごみはここに集めて
(床にテープを貼る)

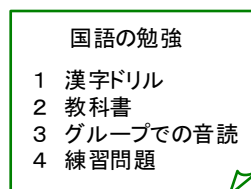
学習環境の工夫例

授業を展開していく際に、たくさんの指示や発問がなされます。指示や発問の内容を見える形にし、分かりやすい授業ができる学習環境を整えましょう。

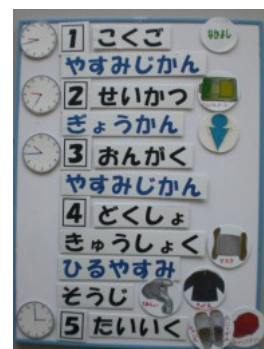
○学習の流れに関する見通しの工夫



教室移動と持っていく物

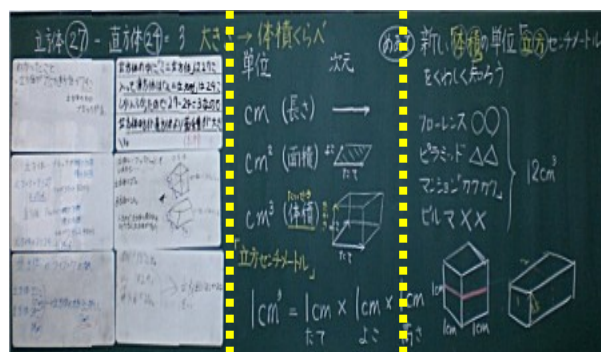


一時間の学習予定



一日の学習予定

○黒書の工夫



- 手順や流れを書く
- 色チョークの活用
- 授業の流れや子どもの思考が分かるようにする。(吹き出しや小黒板の活用)
- 教科書の絵やイラスト、キーワードはカードも活用(授業展開が整理され、振り返りやすい)
- 板書とノート的一致(図や表、課題をプリントで行う工夫)

「通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり」は、岡山県総合教育センターのホームページからダウンロードできます

(担当・特別支援教育部)

羅針盤

第7号

平成21年5月22日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

保健室がつながる、保健室とつながる

5月も後半を迎えました。各学校の保健室では、そろそろ健康診断も終わり、事後措置に忙しくしているころでしょうか？しかし、そのような時にも、たくさんの児童生徒が様々な理由で来室します。養護教諭はあまり多くの時間をかけて一人ひとりの対応ができなくても、いつもと違う様子であったり、頻回に来室するようだったりすると、その症状の原因を考えます。これが健康相談活動の始まりです。

平成9年9月の保健体育審議会答申で「養護教諭の行う健康相談活動は養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、児童生徒の様々な訴えに対して常に心的な要因や背景を念頭に置いて、心身の観察、問題背景の分析、解決のための支援、関係者との連携など、心や体の両面への対応を行う活動」とっています。児童生徒を取り巻く健康課題が増加している現在、健康相談活動は、養護教諭の特に重要な活動となっています。ところが、児童生徒の訴えは、養護教諭一人で解決できるものばかりではないのです。そこで、「つながる」ことが大切になります。

保健室が つながる

まず、養護教諭から、まわりへしっかりつながっていきましょう。

該当児童生徒の学級担任への連絡はもちろん、管理職へ報告をし

す。このほか、学年主任や、保健主事、生徒指導主事、教育相談担当、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーなどと情報交換を行い、支援計画を立てます。必要なら、学校医・学校歯科医や外部の専門機関から指導を受けて、対応の方針を決めましょう。



保健室と つながる

学級担任、教科担任や部活動担当者などが児童生徒のことでいつもと様子が違うことに気づいたときは、養護教諭にも情報を提供しておきます。そうすることで、その児童生徒が保健室に来室したとき、うまく対応することができます。また、養護教諭が持っている他の情報と関係して解決につながることもあります。

「保健室がつながる、保健室とつながる」ということは、児童生徒の健康課題について、校内の連携がうまく図られるということです。そのために、日ごろから養護教諭と他の教職員が十分に情報交換しておくことが最も大切です。

児童生徒が心的な要因や背景を持って症状を訴えたとき、それを見きわめ、解決のための対応を早く行い、子どもたちが笑顔で学校生活を送れるように支援していきましょう。



新型インフルエンザの流行が懸念されていますが、日ごろから「つながる」ということが、学校危機への対応にも生かされるのではないのでしょうか。

(担当・教育経営部)

はじまる！小学校外国語活動

本年度から新学習指導要領の移行措置が始まりました。拠点校を中心として、週3・5時間の外国語活動を本格的に開始している学校もあるでしょう。本号では、外国語活動を実施する上での留意点・心構え等に焦点を当てるとともに、「英語ノート」の活用事例を紹介します。

小学校外国語活動の目標

小学校外国語活動の目標は、子どもたちの「コミュニケーション能力」の素地を養うことにあります。そのために、次のような指導が求められています。

- ①「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る」指導
- ②「日本や外国の言語や文化について、体験的に理解を深める」指導

小学校外国語活動の指導の在り方と担任の役割

①の指導においては、実際に子どもたちに外国語を使ったコミュニケーションを体験させることで、コミュニケーションを図ることの大切さを実感させることが重要となります。また、②の指導においては、外国語の音声やリズムなどに慣れ親しませたり、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付かせたりすることが重要となります。「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする」ことが目標の一つである中学校とは、異なるところです。

「英語ノート」には、約300語の語彙と基本的な日常会話の表現が登場し、それらの表現を活用することで、コミュニケーション活動が行われていますが、最終的に、それらの語彙・表現を習得しているかどうかの評価につながるわけではありません。小学校では、外国語を通じて、言葉の面白さや豊かさに気付いたり、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さに気付く「体験」こそが重要なキーワードとなります。つまり、外国語活動における担任は、「英語を教える教師」という役割より、このような外国語の体験を総合的に企画する「プロデューサー」としての役割を果たすことのほうが重要です。

「英語ノート」の活用事例

[ね ら い] ・英語と外来語とのアクセントや音の違いに気付かせる。

・英語を使ったコミュニケーションを体験させる。

[単 元] 「英語ノート」1 Lesson 4 「自己紹介をしよう」

[語 彙] chocolate, strawberry, ice cream, sandwich, spaghetti, basketball, computer, piano, gorilla

ポイント

児童が集めてくる外来語のうち、アクセントと音に気を付ければ英語として伝わりやすい単語を使用する。

[表 現] Do you like ~? I like ~. Yes, I do./No, I don't.

[主な活動]

- ①予想する 「gorilla」など、それぞれの単語について、そのまま言っても英語として伝わるか、伝わるかも知れないけど工夫が必要か、伝わらないか、を予想する。
- ②気づく それぞれの単語の発音をALTに聞いてもらう。
- ③工夫する うまく通じなかった単語については、発音の仕方を工夫し、何度も挑戦する。
- ④体験する 上記の単語で自分の好きなものをいくつか絵に描き、その紙を持ち、Do you like ~? を使って友達に尋ねる。尋ねられた児童は、Yes, I do./No, I don't. と答える。

(担当・教科教育部)

羅針盤

第9号

平成21年6月5日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

世界環境デー

今日、6月5日は、国際的な記念日「世界環境デー」です。世界環境デーでは1974年の「Only one Earth（かけがえのない地球）」をはじめに、毎年テーマが決められています。今年のテーマは「Your Planet Needs You-UNite to Combat Climate Change（あなたの星はあなたを必要としています - 気候変動へ共に立ち向かおう）」です。日本でも、環境保全に対する関心を高め、啓発活動を図る「環境の日」として設定しています。

環境教育の意義・必要性

中教審答申では、社会の変化への対応の観点から、教科等を横断して改善すべき項目の一つとして、環境教育が取り上げられています。学校における環境教育は、豊かな体験活動を基にして、子どもたちに環境問題やエネルギー問題について正しい理解を深めさせ、リサイクル活動など責任をもって環境を守るための行動がとれるような態度を育成することをねらいとしています。

環境教育の主な視点

① 持続可能な社会の構築を目指す

知識の習得だけにとどまらず、環境や環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、自ら環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力などを育成することを通して、持続可能な社会の構築を目指すことが必要です。

② 消費生活の側面に留意する

3R【Reduce（減らす）・Reuse（再利用する）・Recycle（再資源化する）】を意識化させて、循環型社会の形成を目指す消費者教育の視点も大切にすることが求められています。また、環境にやさしい商品の購入や環境に及ぼす影響の少ない商品の使用・廃棄などについても留意して、指導することが重要です。

持続可能な社会：持続可能な開発が行われ持続可能性を持った社会

持続可能な開発：将来の世代の欲求を充たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発

循環型社会：天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会

21世紀を生きる子どもたちへ

環境教育の活動を充実させるためには、右の三点にも留意して、指導することが大切です。

環境問題のみに限定された環境教育は子どもたちにとって「暗い」話題の学習になり、将来を悲観させてしまいます。深刻な環境問題ばかりではなく、美しい自然、身近な自然への驚きなど、自然への感動体験が環境への関心を引き起こします。将来に対して「明るい」見通しを与えるような話題（環境問題の解決に成功した例など）を積極的に取り上げてください。

こうしたアプローチによって、子どもたちに将来の環境をよりよく形成する希望と責任への意識を与えることができると考えます。

- ・ 家庭、地域社会等と連携する
- ・ 発達等に応じて内容や方法を工夫する
- ・ 地域の実態から取り組む

岡山県では、環境学習・環境教育を効果的に推進するための指針として、「岡山県環境学習の進め方」を策定しています（平成21年4月）。具体的な実践例や連携先などが記載されています。参考にしてください。

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=3882

（担当：教科教育部）

【教師としての感性を磨く】 - G男との再会 -

小学校に勤めるA教諭は現在49歳。今から8年前に担任したG男のことを懐かしく語った。当時、転任してすぐに担任したのは、大規模校の6年生だった。A教諭は教室に入った時、「今度の担任はどんな担任だろうという子どもたちからの強い視線を感じた。その中でも、ひと際目立ったのがG男だった」と語る。生徒指導上、様々な問題を抱えている学年であり、職員の中でも中堅に位置するA教諭は目に見えないプレッシャーを感じていた。クラスの危機を感じたのは、6月のプール開きの頃だった。着替えに時間がかかる。見学者が多い。笛を吹いてもプールからあがらない。学級経営がうまくいっている他のクラスを見ると余計に焦りを感じた。(夏休みまでには、なんとか立て直せるさ)と自分で自分を励まししながら、周りの職員にも弱音を吐けない自分がいた。9月に入り、行事を通してクラスの凝集性を高めていこうと思っていたものの、担任の指示が通らない、子ども同士の人間関係も希薄な状態では、行事をこなしていくのも大変だった。そのうち気になる行動に気付いても見て見ぬふりをするようになっていた。思春期の入り口にさしかかった子どもたちを頭から叱っても反発を買うだけだというのは逃げ口上で、実際はクラスに入るのも怖い自分がいた。そんなある日の業間休みのこと、G男のグループが暴れていると、隣のクラスの子どもたちが職員室に駆け込んできた。数名の教諭と駆けつけた時には、自在箒の柄をつかみ、睨み付けているG男がいた。「何があったんだ…」と声をかけたものの、それ以上何も言えなかった。G男は、「そんなことしか言えねえのかよ」とつぶやき、箒を床にたたきつけてその場を立ち去っていった。

あれから8年。A教諭は偶然にも街でG男に出会う。「先生、俺覚えてる？俺、春には親父になるんだ。あの頃、めちゃくちゃやってて、悪かったなって…。でも俺さ…本当は『何やってんだよ』ってビシッと叱ってほしかったんだ」と。A教諭はあの時G男の何を見ていたんだろうと当時を振り返るのだった。

「本当は、叱ってほしかった」というG男。肩をいからせ強がって見えたG男の心の内には不安な気持ちや寂しさがあったのでしょうか。行き先を見失い暴走している自分たちをしっかりと受け止め、行くべき方向を示してくれる大人を求めているのかもしれない。

教師なら誰しも、子どもの心を理解し、寄り添っていきたいと思っていることでしょう。しかし、教師の中にある自負心や、思い込みが邪魔をして、子どもの心が見えにくくなっていることもあるのかもしれない。子どもの真の声をしっかりと受信できる心のアンテナを磨いていきたいものです。

「出会い・ふれあい・自分を見つめる宿泊研修講座」は、教師としての感性を磨きたい、教師としての自分をもう一度立ち止まって見つめてみたいと思っている、そんな先生方のための講座です。ぜひ一度受講してみませんか。

(担当・生徒指導部)

羅針盤

第 11 号

平成21年6月19日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

どの学校でもできる!

*ICT=Information and Communication Technology

ICT活用授業のための校内研修のすすめ

今年度より移行措置が始まった「新学習指導要領総則」には「各教科の指導にあたっては、(中略)視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」と記され、同解説には「これらの教材・教具を有効・適切に活用するためには(中略)指導の効果を高める方法について絶えず研究すること」とも記されています。つまり全ての先生方が「ICTを活用した授業」を行い、各学校では「ICT活用授業のための校内研修」を行うことが求められています。今回は「これから始めるICT活用授業」と「どの学校でもできるICT活用授業のための校内研修」について、そのポイントを整理します。

これから始めるICT活用授業

実物投影機+プロジェクタ



「この絵を指さしましょう。これは何ですか?いくつかありますか?よく見てねえ。次はこれ…」

瀬戸内市立邑久小学校第1学年担任の野川教諭は、実物投影機とプロジェクタを授業で使い始めて1年。教科書の挿絵を大きく映して、指さしながら、スモールステップで、授業を進めています。

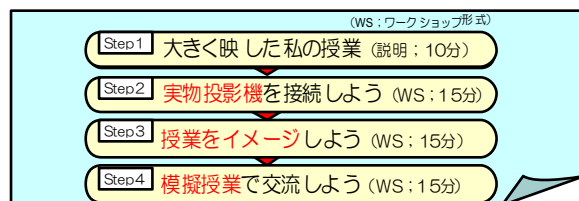
「コードをつないでスイッチONだけなので、ICT初心者でも安心して使っています。最近は子どもが設置してくれます。指さしたり、スクリーンに書き込んだりしながら説明すると、子どもたちは前をよく見て、聞くようになり、何度も同じ説明を繰り返すことがなくなって、授業の進度が随分早くなりました。後は私がよく伝わるように言葉を精選するだけですけれど…」と笑顔で語ってくれました。

このように普通教室での教科指導に、まずは「大きく映して、明確な説明・指示」を加えるだけで、授業はわかりやすく変わり始めます。ICT活用授業の初めの一歩として、「実物投影機+プロジェクタ」を活用した授業から始めてみてはいかがでしょうか?

どの学校でもできる

実物投影機+模擬授業の校内研修

全ての先生方が「実物投影機+プロジェクタ(大型デジタルテレビでも可)」を活用した授業を行うことができるよう、校内研修の手順を設定しました。



Step2では、実物投影機とプロジェクタの接続実習を行います。パソコン操作の研修よりも、覚えることが少ないので短時間で実施可能です。映す物は普段の授業で使用している教科書や資料集、子どものノート等なので、従来の教科指導と同じです。特にICTの操作が得意でない先生方の負担感を軽減することができ、できる体験を味わっていただけます。

また Step3, 4の授業をイメージし、模擬授業を行う際には、教材を映す際の「発問・説明・指示」を各先生方がしっかり吟味し、全体で共有します。

「あの先生の〇〇の発問はいいなあ。明日から自分の授業ですぐに試してみよう」といったように、具体的に、日常の授業に役立てていくことができます。

以上の校内研修がすぐに実施できるよう、提示するスライドや進め方の手順を記した実施マニュアルなどからなる「校内研修パッケージ」を下記URLに用意しました。ぜひ、ご活用ください。

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/jyoho_kyouiku/index.htm

(担当:情報教育部)

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

第 12 号

平成21年6月26日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

子どもたち一人一人が安心して活躍できる学級



子どもと教師の関係性という側面から



ある小学校の特別支援学級の授業を参観させていただいた時のことです。教室に近付くと、開かれた窓からは子どもたちの前に立って話をされているA先生のこやかな表情が目に飛び込んできました。廊下にいる私は、A先生の温かな雰囲気包まれている心地よさを感じました。

教室の後ろには、たくさんの参観者が熱心に授業を参観しています。子どもたちは参観者のことを気にしながらも、A先生が箱から取り出す野菜を見ては、「きょうりゅうみたい」「土がついてるよ」「つめたい？」など、子どもらしいつぶやきを発していました。A先生は、そのつぶやきを大切に受け止めながら授業を進めていかれました。

参観者が教室にいても、子どもたちとA先生との間には穏やかな空気が流れ、子どもたちは安心して活動に取り組んでいることが感じられました。

子どもたちが安心して活動に取り組める学級は、めあてに向かって子どもたちが力を発揮できる環境が整えられている学級だと思います。そのためには、学級の中の物的な環境整備とともに、先生の願いやメッセージ、学級のルールの意味を子どもたちに分かりやすく伝えること、子どもたちはそれをどのように受け止めているかを先生が感じ取ることが必要です。また、「分からないと言える」「自分は認められている」「先生は話を聞いてくれる」などと、子どもたち自身が安心感や所属感を得ることができ居場所であることも大切です。

教師のかかわりや支援の一つ一つは、子どもたちと先生との関係性を築いていきます。「自分と先生」との関係だけではなく、「友達と先生」との関係も子どもたちは敏感に感じていることを心に留めておきたいですね。



子どもたちの内面の成長という側面から



B君は、通常の学級に在籍する発達障害のある3年生の児童です。計算は得意ですが、話し合い活動には参加しにくいと感じています。「苦手だな」「どうしたらいいんだろう」と思ったとき、B君は、C先生にこう言います。「先生、(元気が出るように、僕の) 背中のボタンを押して」と。C先生は、B君の思いを受け止めて、「がんばろうと思っているんだね。分かったよ。ボタンを押すね」と励ましながらB君の背中に優しく触れます。

B君が、C先生に応援を求めている一場面です。B君とC先生との信頼関係を表す出来事であり、注目したいのは、B君の内面の成長です。自分の苦手なことを意識しているB君ですが、「苦手なことはダメなこと」ではなく、「大好きな先生に励ましてもらってがんばろう」と思っていることです。

自分の気持ちを意識することができること、困ったときには助けてもらうことによって「自分は頑張ることができる」という自分への理解が進んでいることが考えられます。

発達障害のある子どもたちは、失敗や叱責などが重なることによって自己否定感を強めることがあります。「苦手なことがあってもいいんだよ」と、本人が肯定的に自分を理解するように支援することによって、自分らしく活躍できることをB君に教えてもらいました。

(担当・特別支援教育部)

羅針盤

第13号

平成21年7月3日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

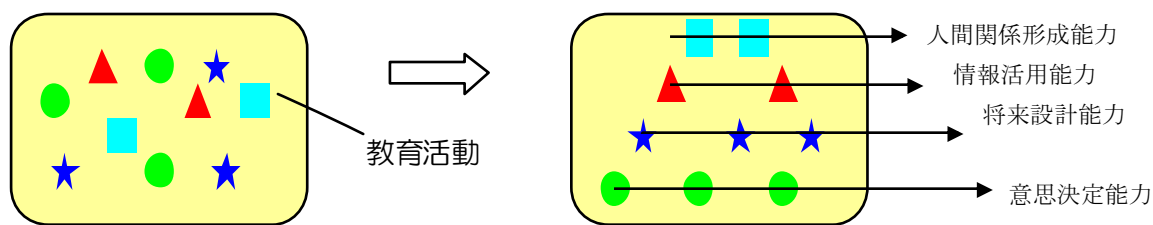
キャリア教育推進のために

既存の教育活動を関連づけ一本の線へ

キャリア教育は必ずしも新しい教育活動を導入するものではありません。既存の教育活動の中にキャリア教育と関連するものが多くあります。それらをキャリア教育の視点でとらえ直し、育てたい能力に沿って、体系的に関連づけていき（点と点を一本の線で結ぶイメージで）取り組んでいくことが大切なのです。勿論、学校や地域の特性、子供たちの実情に応じて、新しい教育内容や活動を加え、キャリア教育をより豊かにする工夫も大切にして下さい。

キャリア教育の視点とは … 将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子供たちの成長や発達を促進する見方
育てたい能力とは … 人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力

教育活動の関連づけのイメージ



このように教育活動を体系的に関連づけていくことで、教科や学年団をこえて、組織的な取り組みに発展させていくことが重要です。

成功するキャリア教育5つのポイント

- (1) まずは踏み出す。
→ 走りながら修正すべきことは考えればよい
- (2) 自校の理念・目的・到達点を設定する。
- (3) 4領域8能力に過度にとらわれない。
→ あくまでひな形
- (4) 外部講師を活用する。
→ 教員はコーディネーターに
- (5) 効果検証と、外部への発信をする。
→ 地域・家庭の教育力を取り戻すため

先生を見ています、子供たちは

キャリア教育において組織的な取組をすることは大切ですが、もう一つ大切なことがあります。それは子供たちが日々、接している担任の先生や教科担当の先生の明るく活き活きと働く姿を見せることです。子供たちは先生の生きる姿に、大人になった時の自分の姿を描いているとも言えます。「大人になり仕事に就き、生きていくことは苦労もあるが、それを上回るやりがいや喜びがあるんだ」ということを先生自身が日常の教育活動を通してしっかり伝えていき、子供たちに夢や希望を与えていくことが大切です。

体験活動をするときの注意点

- Check1 やりっぱなしにいませんか？
- Check2 外部講師の方は活き活き話をされましたか？
- Check3 事後の自己理解につながりましたか？

国立教育政策研究所（小学校教員向けキャリア教育推進用パンフレット）

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou_panfu.htm

（担当・教育経営部）

羅針盤

第14号

平成21年7月17日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel:(0866)56-9101 Fax:(0866)56-9121

習熟度別指導 効果UPのポイント

6月の習熟度別指導研修講座において、多くの先生方が習熟度別指導をどのように進めていけばよいのかという悩みを抱えられておられることが分かりました。そこで今回は、習熟度別指導を進める上での効果UPのポイントをご紹介しますので、今後の取り組みのヒントにさせていただきたいと思います。

point1 子どもの実態を多面的にとらえよう

習熟度別指導を進める際、実態把握の方法としてよくプレテストが用いられます。しかし、このテストによって把握できることは、主に知識や技能の定着具合です。より個に応じた指導をするためには、次の3点に示すように多面的に子どもの実態をとらえる必要があります。

- 多様な方法で実態を把握する（例、ノートの記述、授業中の様子など）
- 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現・技能」「知識・理解」の4観点でとらえる
- 複数の教師によって見取る

多面的にとらえることで、次のような児童のつまずきの原因を見取ることができるかもしれません。

- ・ 解決の見通しがもてない
- ・ 筋道立てて考えたり説明したりすることができない
- ・ 特定の内容に興味・関心がない

point2 子どもの適性に合った指導をしよう

たとえ小集団、同質な集団だからといって、これまでの一斉指導と同じような一律的な指導をしていたのでは、効果は期待できません。多面的にとらえた子どもの実態を考慮して、個々の適性に合った指導をすることが大切になります。そこで、事前に次の5つの視点で考えて計画を立てることが求められます。

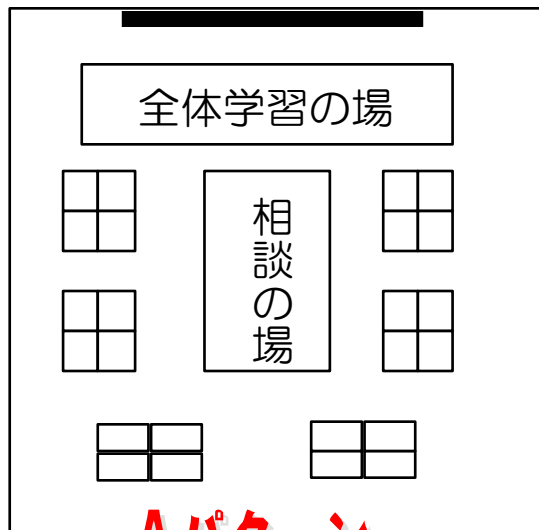
- 学習活動—どのような学習活動が適しているか（例、操作的・体験的な活動）
- 学習内容—どれくらいの量や範囲が適しているか
- 教材・教具—どのような教具が適しているか（例、数図ブロック）
- 学習形態—どのような学習場所・形態が適しているか（例、机を離して個別指導が中心）
- コース設定—どのような学習課題が適しているか



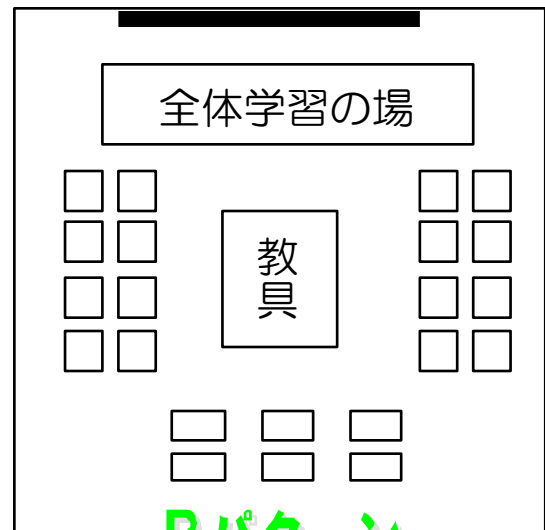
教師の見取りが必ずしも正しいとは限りません。常に表情やつぶやきなど子どもの反応を見ながら、「今の子どもの姿」に臨機応変に対応することが大切になってきます。

また、子どもの適性に合った指導をすることで、個々のがんばりや成長をきちんととらえて、しっかりほめることも効果UPにつながります。

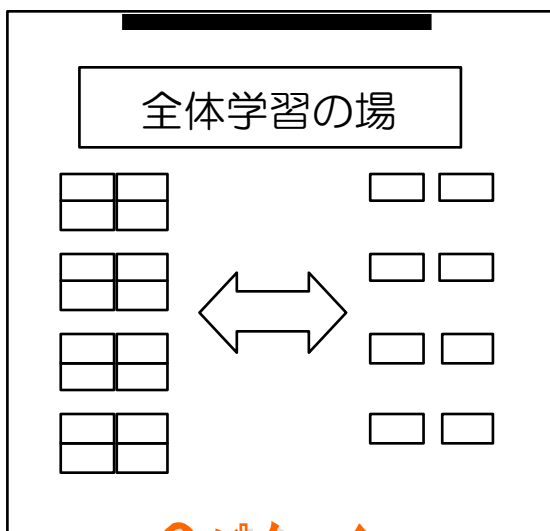
学習形態の工夫例



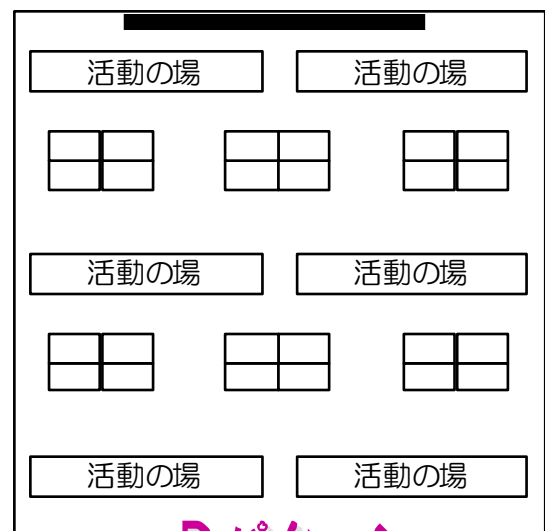
小グループで話し合い活動等を行う場合の例。中央に個別相談ができるように机を設置する。



多様な教具を用いて学習する場合の例。中央に教具を置いて子どもが自由に取りに行けるようにする。



グループ学習の場と一人学習の場とを並列して設ける場合の例。児童の適性に応じて場を選択することができるようにする。



グループ学習を中心とした例。グループの構成は、同質又は異質の2パターンが考えられる。

※他にも様々な学習形態が考えられます。「習熟度別指導実践事例集」(県教育庁指導課 平成20年度発行)「少人数指導の手引き」(県教育庁指導課 平成15年3月発行)を参考にしてください。

羅針盤

号外

平成21年7月10日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

平成21年度岡山県総合教育センター

夏期研修講座のご案内

梅雨さなかですが、各学校では、教室や運動場で、梅雨空を吹き飛ばすような子どもたちの元気な声があふれている事と思います。吉備高原の棚田の早苗もスクスクと育っています。

さて、夏休みが目前に迫り、夏季休業中に研修講座の受講を考えておられる先生方も大勢おられるのではないのでしょうか。そこで、今回の「羅針盤」では号外として、岡山県総合教育センターの五つの部が主催する研修講座のご案内をいたします。

なお、岡山県総合教育センターのWebから、より詳しい情報をご覧ください。



今年度の「岡山県総合教育センター」は・・・

■それぞれの講座の特性を生かし、各部がその専門性を発揮して児童生徒の学力向上につながる内容を研修に入れていきます。

キーワード・・・学習意欲の向上 思考力・判断力・表現力の向上 学級づくり

■受講者のライフステージに合った研修、受講者が必要とするスキルのアップをめざした研修を、人材育成の視点を持って実施します。

研修講座の申込や最新情報の確認は、Webから

研修講座のより詳しい情報の確認もできます。

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

◆今回配信の「夏のお勧め講座」の各講座名をクリックすると講座の詳細が参照できます。



教育改革の動向やキャリア教育、学校評価など様々な喫緊の教育課題に対応し、学力向上、人材育成を目指して、次のような研修講座を開設します。

学力向上を目指した研修講座

◆学力向上に向けた校内研修（7/29）

共同的・創造的・問題解決的なワークショップ研修は、教職員の意欲を高めます。研修方法を学んで各学校の学力向上につなげましょう。

◆Q－Uを活用した学級づくり（10/9）

良好な学級集団は、学力向上の基盤となります。学級経営（H R 経営）研修講座では、Q－Uを活用した学級集団の理解と対応について研修します。Q－Uをよりよい学級づくりに生かしましょう。

◆学習意欲を高めるキャリアカウンセリング（10/2）

キャリア教育は、働くことへの関心・意欲の向上だけでなく、学習意欲の向上も期待できます。キャリア教育研修講座では、キャリアカウンセリングについて、講義や演習を通して研修します。その成果を各校のキャリア教育の充実に活用しましょう。

ニーズに応じたスキルアップを目指した 研修講座

◆学校組織マネジメントと学校活性化（8/11）

学校組織や学校風土の特徴を踏まえた上で、学校を活性化するための方策を検討します。

◆学校評価を生かした学校改善（8/26）

学校評価に関する講義や実践発表を通して、学校改善の道筋を探ります。

ライフステージと職能成長を考えて、研修講座を組み合わせ、内容を深めたり広げたりしてスキルアップを図ってみましょう。

例えば 教務担当者研修講座と学校組織マネジメント研修講座
キャリア教育指導者養成研修講座とキャリア教育研修講座 等

※ 講座名をクリックして講座の詳細を御確認ください

新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育成するために、夏季休業中に次のような研修講座を開設します。

※主なものを紹介します。



学力向上を目指した研修講座

◆新学習指導要領が目指す教育について学ぶ研修講座

- ・各教科研修講座において、昨年度、県総合教育センターが作成したリーフレットをもとに、改訂の趣旨を生かした授業づくりについて研修を深めます。※開催日は、各教科の研修講座の内容を参照してください。

◆センター内各部、教科間、校種間で連携して行う研修講座

- ・センター内各部の専門性を生かし、それぞれが連携して、メディアリテラシー、消費者教育等の研修を行います。

★小・中国語 8/19 ★小社会 8/12 ★高家庭 7/30

- ・校種間の接続を大切にした授業づくりに向け、系統的な指導の在り方について研修します。

★中理科・高地学 8/7 8/18 ★中社会・地歴公民 8/7 ★小音楽 7/27

★小算数・中数学 8/12 ★中・高数学 8/17 ★技・家(技) 7/31

人材育成につながる研修講座

◆授業づくりのスキルアップにつながる研修講座

- ・公共及び民間施設を活用し、センターではできない演習や実習など、専門性を高める実践的な研修を行います。

★小・中・高国語 8/18 (県立図書館) ★小社会 7/23 (日銀, 裁判所)

★地歴・公民 8/4 (古代吉備文化財センター) ★中技・家 8/7 (中電)

★高生物 7/24 (自然史博物館) ★小図工・中高美術 8/20 (県立美術館)

★小理科・生活 8/19 (国少) ★小・中・高音楽 8/12 (県立美術館)

◆リーダー養成につながる研修講座

- ・道德教育推進教師の育成、小学校外国語活動の推進など、校内体制の中核となるリーダーの育成などをめざした研修を行います。

★人権 8/21 ★道德 8/21 8/25 ★小外国語 7/24 8/3 8/11 ★総合 8/6

喫緊の課題に対応した研修講座

◆今日的な課題に対応した研修講座

- ・時代の教育的ニーズを受け、横断的・総合的な課題に対応した研修を行います。

★国際理解 7/23 ★福祉・ボランティア 8/10 ★いのちの教育 8/6

※ 講座名をクリックして講座の詳細を御確認ください

<連絡先> 教科教育部 TEL: 0866-56-9103

FAX: 0866-56-9123

生徒指導の総合的な力を高めるために、喫緊の課題への対応力向上と教職員のメンタルヘルス悪化を予防するための研修講座を次のように開設します。

喫緊の課題に対応した研修講座

◆実践生徒指導研修講座 1～5

喫緊の生徒指導上の課題に対応するため、積極的な生徒指導と具体的対応方法を身に付けるための講座です。ニーズに合わせて受講してください。

- 1 学校危機管理（7/30）
- 2 「ブリーフセラピーを生かした学校教育相談の実際」（8/11）
- 3 「保護者との良好な関係を築くために 一クレーム対応を考える」（8/27）
- 4 思春期の心―自傷・自殺の予防・対応―（10/16）
- 5 いじめの理解と対応 ―いじめの心理理解と具体的対応―（11/17）

メンタルヘルスに関する研修講座

◆同僚性を形成するためのミドルリーダー養成研修講座

教職員のメンタルヘルス悪化の予防となる支え合う学校風土をつくり、よりよい教育活動を展開するために、教職員の「同僚性」を形成する実践力を養うための講座です。（連続講座）

第1日 メンタルヘルス悪化の予防となる同僚性の形成（8/3）

午前：講義「教職員のメンタルヘルスと同僚性」

午後：演習「教職員間の人間関係づくり」

第2日 同僚性を形成するために担当者に求められるもの（8/17）

午前：講義「同僚性を形成するために担当者に求められるもの」

午後：演習「サポートのためのスキル」

第3日 同僚性を形成するためのプログラムの作成（10/1）

午前：講義「同僚性を形成するためのプログラム作成の進め方」

午後：演習・協議「同僚性を形成するためのプログラムの作成」

※ 講座名をクリックして講座の詳細を御確認ください

子どもたちの教育的ニーズに応じた支援の充実のために、実践的な研修講座を開設し、専門性の向上を図る支援をします。

学力向上を目指した研修講座

学力向上の
基盤

◆特別支援教育基礎研修講座（8/20）

対象：特別支援教育に関する基礎的知識の習得を目指している方

講義・実践発表を通して、特別支援教育の基礎的な考え方、支援を必要とする児童生徒への理解と支援等について研修します。

◆特別支援教育相談研修講座（8/7，8/27）

講義・校種別の分科会による協議を通して、障害のある子どもの保護者及び本人への教育相談について研修します。

障害特性を
踏まえた学習、
生活支援

◆発達障害児の理解と支援研修講座 （7/28，8/5，8/18，8/25）

障害種別，子どものライフステージに沿った内容を講義，実践発表，協議を通して研修します。

◆特別支援教育授業づくり研修講座（8/4，8/21）

特別支援学校，小・中学校の通常の学級及び特別支援学級における授業づくり・授業改善について研修します。

人材育成を目指した研修講座

NEW★ 高等学校特別支援教育コーディネーター研修講座（9/24）

ニーズに
応じた
スキルアップ

◆重度・重複障害児の理解と支援研修講座（8/10）

重度・重複障害児の健康管理等の講義と動作法・静的弛緩誘導法を中心とした演習を行います。

※ 講座名をクリックして講座の詳細を御確認ください

「教員のICT活用指導力」を高め、分かる授業の展開や児童生徒の情報活用能力の育成を目指します。また、情報モラル教育等の喫緊の課題に対応した研修講座を開設します。

新しい研修講座

- ・ 基礎学力習得！フラッシュ型教材作成研修講座 (8/7)
- ・ タブレットPCで簡単授業活用研修 (8/3)
- ・ 小学生に情報活用能力を育成するための授業づくり研修講座 (8/10)
- ・ eラーニング活用で学力向上研修講座 (8/7)
- ・ はじめてのプログラミング研修講座 (8/11)



学力向上を目指した研修講座

- ◆ 「教員のICT活用指導力」を高める研修
 - ・ 大きく見せて分かりやすく！実物投影機活用研修講座 B (8/12)
 - ・ 気軽に活用！はじめてのICT活用授業入門研修講座 (8/20)
 - ・ 授業に生かすはじめてのプレゼンテーション研修講座 B (8/27)
- ◆ 児童・生徒の情報活用能力の育成を目指した研修
 - ・ メディア・リテラシー育成研修講座
消費者教育 (7/30), 社会科 (8/12), 国語科 (8/19)
 - ・ 小学生に情報活用能力を育成するための授業づくり研修講座 (8/10)

人材育成を目指した研修講座

- ◆ 校務の情報化を技術的にサポートする人材の育成
 - ・ Windows Server 2003による校内ネットワーク管理者研修講座
A (8/6, 8/7, 8/10) B (12/10, 12/11, 12/14)
 - ・ はじめてのデータベース研修講座 B (8/18)
 - ・ 学校・学級ホームページ作成で情報発信研修講座 B (8/11)

喫緊の課題に対応した研修講座

- ・ 小・中・高等学校における情報モラル指導のための授業展開と実践の工夫研修講座 (8/17)
- ・ これだけはやろう！情報セキュリティ対策研修講座 1 (7/27), 2 (8/5)

※ 講座名をクリックして講座の詳細を御確認ください

羅針盤

号外

平成21年7月24日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校コンサルテーションで「支援します！」

☆「岡山県総合教育センター」といえば？

「岡山県総合教育センター」といえば、どのようなイメージを思い浮かべますか？

「たくさんの先生方が（遠路はるばる？）集まって、研修を受けるところ…」これが多くの方のイメージではないでしょうか？

たしかに、先生方を対象とした研修講座の企画・実施は県総合教育センターの大切な事業の一つです。でも、研修室や実習室を会場とした教員研修だけが、当センターの仕事ではありません。

今回は、当センターの今年度の行動目標「届けます」「出かけます」「支援します」「提案します」「磨きます」の中で、特に「支援します」を重視した「学校コンサルテーション」を紹介します。

☆ 学校コンサルテーションとは…

いじめ、不登校、学級の荒れ、問題行動などの生徒指導上の問題や、障害のある児童生徒一人一人に応じた支援等について、より機能的な校内支援体制が整備されるように、岡山県総合教育センターの指導主事が各学校の先生方を支援する事業です。

どんな校内組織がいい
のかな？教育センター
に相談してみよう…



☆ 学校コンサルテーションの申し込みから実施まで…

①まずはお気軽にお問い合わせを

課題となっている事例のニーズに応じて、電話あるいは来所で担当部にお問い合わせください。担当者が、事例の概要や支援ニーズの確認、日程の調整等を行います。

いじめ、不登校、学級が機能しない、問題行動など生徒指導上の諸問題について

ご相談は生徒指導部
(0866-56-9105)まで

障害のある児童生徒一人一人に応じた支援について

ご相談は特別支援教育部
(0866-56-9106)まで

②学校から当センターへの正式依頼は

県総合教育センターで
コンサルテーションを実施する場合

管理職の方が電話で依頼してください
(当センター担当部長へ)

学校コンサルテーションの実施！
一緒に、適切な児童生徒支援、
校内組織の在り方などについて、
検討しましょう！

それぞれの学校で
コンサルテーションを実施する場合

管理職の方が電話で依頼してください
(当センター担当部長へ)

派遣依頼文書を送付してください
(市町村立学校は市町村教委を通じて)

※実施要項、申請の手続き、派遣文書様式等は
当センターWebページをご覧ください。

職員の役割分担がはっきりして
全職員が足並みをそろえて指導
することができました。
(活用された学校のアンケートから)

羅針盤

第 15 号

平成21年8月7日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121



夏休みにする 情報モラルの教材研究のすすめ

情報モラルの授業は、一部の先生が行うものではなく、すべての先生が実施する必要があります。そこで今回は、「情報モラルの授業」の教材として、当センターで作成した「すべての教員が情報モラルを指導するための授業実践パッケージ」についてご紹介させていただきます。夏休みに教材研究をして、2 学期以降実施する情報モラルの授業でぜひご活用ください。

「授業実践パッケージ」

情報モラルを指導するための教材は数多く流通しているのですが、すべての先生が利用するには敷居が高かったり、有用な教材情報が十分認識されていなかったりという現状があります。そこで、すべての先生にとって使いやすかつ学習効果の高い授業実践パッケージを開発しました。

パッケージは、「学習指導案」「ワークシート」「指導の手引」「板書例」等で構成しており、下記 URL よりダウンロードして使うことができます。(2 ページ目に「ケータイに忍び寄る罠」のパッケージの一部を紹介しています)

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gak-koushien/jyoho_kyouiku/moral/index.html

「授業実践パッケージ」 活用方法

1 授業前にパッケージをダウンロード

すべてをダウンロードしておくことで便利です。また、学校や児童生徒の実態に合わせてワークシートを改変できるよう、WORD、一太郎ファイルもパッケージに含まれています。

2 ビデオ教材を準備

ビデオ教材の入手については、トップページの「ビデオ教材について」を参照してください。

3 学習指導案を読み授業展開を確認

学習の狙いや、授業展開での発問や指示、予想される回答を確認してください。

4 使用するビデオを必ず視聴

ビデオの内容は 5～10 分程度の短いドラマです。解説のあるビデオ教材は視聴しておく用語の確認も含めて授業展開がイメージしやすくなります。

「授業実践パッケージ」 校内研修での活用

たとえば次のような展開が可能です。

- 1 学年ごとのグループに分かれて、先生、生徒の役割分担
- 2 授業実践パッケージを使い模擬授業を実施
- 3 展開や発問等について意見交換

校内研修の進め方、授業展開の工夫等についてのご相談は、カリキュラムサポートセンターをぜひご活用ください。

[TEL] 0866-56-9108



★NHK教育で「ケータイ社会の道しるべ」が8月3日に放映されました。家庭での情報モラル教育と、学校との連携について描いた内容でした。

情報提供



再放送

(担当：情報教育部)

情報モラル授業実践パッケージ

学習指導案

「ケータイに忍び寄る罠」 (小学校6年, 中学校1, 2年)

ねらい

モデルカリキュラム表 【d3-2】【d4-2】【f4-2】

- ・クリックだけで個人情報を盗まれる悪質な迷惑メールや携帯サイトに出会う可能性があることを知る。
- ・発信者の意図を読み解きながら, 安易にクリックしないことや迷惑メールが送られたときの対応の仕方を知る。



「ケータイに忍び寄る罠」(ちょっと待って, ケータイ DISC.1 子ども向け 事例2)

いつもケータイでゲームをして遊んでいる小学校6年生の勇太。ケータイを買ってもらった時に人気のゲームサイトを利用したいからと母親に頼んでフィルタリングをはずしてもらった。ある日, 勇太のケータイに懸賞応募のメールが届く。ゲームソフトが500人に当たることに興味を持つが, なんか怪しいので「配信停止」をクリックする。すると架空請求のメールや卑猥な内容のメールが次々として入ってくるようになる…。 視聴用資料より
http://www.elnet.go.jp/elnet_web/jp_OndemandContentLogger.do

○留意点

- ・実際に起こった事件を通してサイト制作者の意図を読み解きながら対応の仕方を考え, 被害に遭わないようにする。



=情報の受け手としての知識を得る・配慮を知る



=情報の送り手としての工夫・配慮を知る



=他のメディアを活用する

I. 無料ゲームサイトを見たとときどうするか話し合う(5分)

- こんなページに出会ったらどうしますか? その理由は?

自分が出会ったら進むのか進まないのか理由とともに話し合う。

提示物: 無料ゲームサイト
トップページのイメージ



全ての子どもに偶然出会うことがあるという認識をもって話し合わせ, 自分のこととして捉えさせる。自分とは逆の立場をとる子どもの意見も聞くことにより, 立場を変えた考察を促す。

II. ドラマを視聴して, 気付いたことを発表して問題点に気付く(15分)

ビデオ: ケータイに忍び寄る罠
(ドラマ2) 4分45秒

- ドラマを視聴して気付いたことや思ったことを発表しよう。

気付きや感想をワークシートにまとめて発表し, 不審メールへの対応の問題点に気付く。

WS: 気付いたことや
思ったことをメモしよう

「配信停止」ボタンを疑うことなく押したため架空請求されたことに気付く。
かたがたでも, 有害サイトや悪質サイトにアクセスしてしまうことがあり,

指導の手引

ケータイに忍び寄る罠

()年()組()番 氏名()

I. 主人公たちのケータイ利用で気付いた問題点

主人公

- ・迷惑メールのボタンを押してしまった。
- ・架空請求されている

※ 迷惑メールがなぜ来るのか問いかけ, 問題点

II. 無料のサイト制作者は, 何を目的にして運営し

● 無料サイトの内容はどんな内容が多いかな? 内容

「無料サイトは広告やプレゼントが多い…。無料ゲームサイトは多くの人々がたらく企業に, 無料でゲームをさせたりプレゼントを行ったりするように利益を得ているのか考えさせたい。

● 実際に起きた事件を読んで, 悪質な送り手はメール, 架空請求, 詐欺, さらに詳しい個人情報を得る

※ 無料サイトの広告やリンク先の全てが悪質であること, 利用するときは必要以上の個人情報

「ケータイに忍び寄る罠」

どうする?

進まない

- ・危なそう
- ・お金がかかる
- ・ダメって言われてるから
- ・興味がない

進んでみる

- ・楽しそう
- ・タダだから
- ・友達もやってるから
- ・ゲームがしたい!

主人公たちの行動の問題点は何だろう?

友だち

- ・知らないうちに有害サイトにアクセスしてしまった。
- ・フィルタリングをしなかった。

主人公

- ・架空請求された。

なぜ架空請求のメールが来たのだろう?

不審なメールのボタンをよく考えずに押してたから

板書例

無料でゲームを提供するサイトの意図は?

送り手

- ・登録により個人情報
- ・広告メールで商品
- ・買って欲しい

受け手

- ・ゲームがしたい
- ・プレゼントや漫画が欲しい
- ・いろんな人と知り合いたい

悪質な送り手

- ・個人情報から
- ・架空請求
- ・なりすまし

不審なメールや無料サイトに出会ったら…

- ・進むと, どんなことが起こるか予測する。
- ・不安であれば削除したり画面を閉じる。
- ・メールの送り主やサイトの運営者の目的を考えて自分を守る。

羅針盤

第16号

平成21年8月21日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

夏休み後の

学校生活の再開に向けて



長い休み明けはいろいろな形で児童生徒の変化が表れやすい時期です。生活リズム、服装・表情・態度等や問題行動への対応など、生徒指導の一つの正念場です。

また、夏休み明けから不登校になる児童生徒が少なくない一方で、不登校が続いていても始業日は登校するなど、「節目」の時期にはこれまでにない動きが現れやすくなります。

児童生徒の「変化」をよりよい「変容」につないでいくために、変化をどのように理解し、どのようにとらえ、どのように対応するか。始業日後の慌ただしさを見ると、始業日前の今だからこそ取り組んでおきたいこと、取り組めることがたくさんありそうです。

- ・気になる児童生徒はいませんか？
- ・始業日までに（始業日前だからこそ）「会っておいた方がよい児童生徒や保護者」「連絡を取っておいた方がよい児童生徒や保護者」はいませんか？

※ 「行動したことの後悔より、行動しなかった後悔の方が大きい」(T.ギロピッチ)

ポイント

児童生徒の安心感、安全感を高めるかかわりを

久しぶりに全員が顔を合わせる初日は、だれにとっても何らかの不安があるもの。問題行動の有無にかかわらず、宿題・課題等の取り組みが十分でないなど、登校に大きな不安を抱えている場合があります。事前に直接、学校の先生から安心して登校することができるようなかかわりは、登校の大きな力になります。

児童生徒の安心感、安全感を高めるかかわりの基本的な考え方として、「**困った子**」から「**困っている子**」という認識へ、「**困った親**」から「**困っている親**」という認識への枠組みが必要です。「困った子」というとき、主語は地域、親、先生、学校になっており、「困っている子」というときには主語はその子自身になります。その上で、「どこで困っている、何で困っている」ということを支援するという福祉的な考え方です。

また、欠席が続いている児童生徒が久しぶりに登校した場合、そのときの学校や学級での居心地がその後の登校を大きく左右します。その日が、その子にとって始業日という節目になるような準備が必要です。

ポイント

一人ではなく、チームで対応を

早期発見・早期対応は学校の生徒指導力が試されるときです。一人ひとりの取り組みは校内の生徒指導体制によるものであり、「報告、連絡、相談」といった取り組みのベクトル合わせに基づいた、チームで協働的な実践が必要であり有効です。

このような始業日前だからこそ、改めて生徒指導が組織的な取り組みとなっているかどうかを検討し改善する機会としたいものです。
(担当：生徒指導部)

羅針盤

号外

平成21年8月28日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

岡山県総合教育センター メディアセンター によこそ!

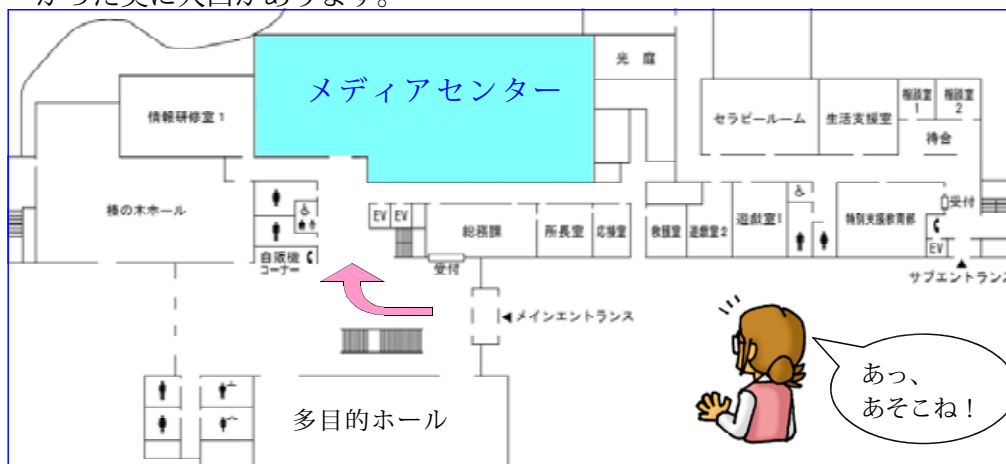
今回は、岡山県総合教育センター1階にあるメディアセンターをご紹介します。

☆「メディアセンター」って何をするところ?

教育に関するあらゆるメディア(図書、研究資料、コンピュータソフト、ビデオ、DVD、VODなど)を取りそろえ、先生方の授業改善や校内研修を支援するのがメディアセンターです。

☆「メディアセンター」ってどこにあるの?

意外と知られていないのが、メディアセンターの場所です。メインエントランスを入って右に曲がった奥に入口があります。



相談しながら
指導案づくり!



☆「メディアセンター」の中は?



☆「メディアセンター」の各セクションの役割は？

中央教科書センター

岡山県内で使用されているすべての教科書を常時展示しています。

展示コーナー

当センター各部のインフォメーションや授業で活用できる教材等を展示します。

教材作成・大型印刷物作成コーナー

色画用紙、フェルトペンを用いて教材がその場で作成できます。(無料)

また、垂れ幕やポスターなどの大きな印刷物のプリントアウトもできます。(有料)

ソフトウェアライブラリー

授業や校務で活用できるソフトウェアをインストールしたコンピュータを操作することができます。

また、教育用ソフト、DVD・ビデオ教材、VOD教材を展示しています。

研究資料・図書資料コーナー

雑誌ブラウジングコーナー

県内外の教育研究機関の研究紀要や報告書、教育全般に関する図書、行政資料、そして教育雑誌など、図書・研究資料を5万件以上所蔵しています。

☆「メディアセンター」を利用するには？

- ・利用できる曜日と時間は、月曜～金曜日、8時30分～17時（祝祭日を除く）です。
- ・毎日昼食休憩時には担当指導主事がメディアセンターに常駐し、資料の検索や機器の使用方法を説明します。また、先生方の相談にも応じます。

☆「カリキュラムサポートセンター」を利用するには？

メディアセンターには、カリキュラムサポートセンターの機能もあります。

カリキュラムサポートセンターでは、指導案作成や校内研修、あるいは日々の学習活動について指導主事が相談に応じます。

まずは、岡山県総合教育センター・カリキュラムサポートセンターに電話をしてください。
電話は【0866-56-9108】です。担当指導主事を紹介します。

担当指導主事と来所の日程調整をしてください。
電話等で相談できることは、その場でご相談に応じます。



県総合教育センターに来所し、カリキュラムサポートセンターで相談してください。
例えば…

- ・カリキュラムサポート … 学習指導案作成や教材開発について、指導主事が支援します。
- ・研修コーディネート … 指導主事が各学校の課題に応じた研修計画を提案します。
- ・学習指導コンサルテーション … 日々の授業に行き詰まるなど、個々の先生方が悩みを抱えられたとき、指導主事が学習指導の相談に応じます。



2学期の研究授業の相談にのってもらいました。具体的な指導案を紹介してもらいながら説明をいただいたので、とても分かりやすかったです。
教材もその場で作ることができるようなので、次回は利用してみたいです。
(利用された方の感想から)

羅針盤

第17号

平成21年9月4日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

考える力を育てる ～ノート指導～

先日公表された全国学力・学習状況調査の調査結果では、「授業でノートを丁寧に書いている児童生徒の方が、国語、算数・数学の正答率が高い傾向が見られる」という内容が報告されました。「丁寧に書く」とは、「丁寧な文字で書く」という意味でしょうか。今号では、「ノートを丁寧に書く」ノート指導の在り方を見直したいと思います。

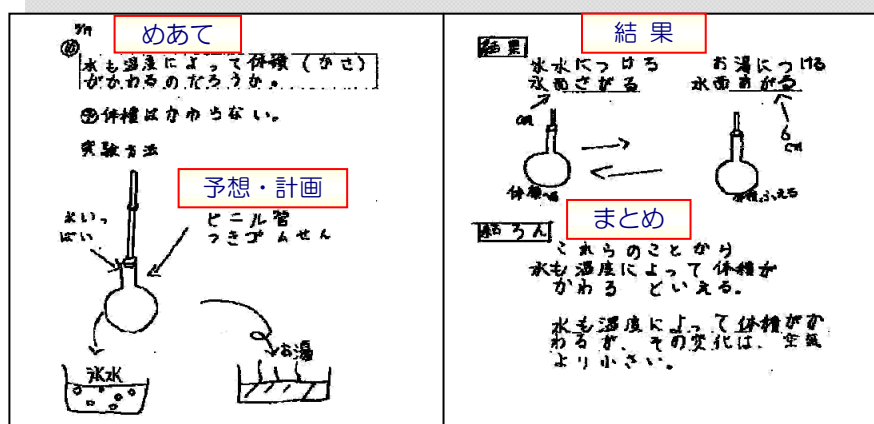
「書く」ということ

私たちは、絵や図表に表す、→や□、などの印を付けるなど、さまざまな方法で「書くこと」を行っています。「書くこと」によって、頭の中にある曖昧なイメージをはっきりさせたり、事象間の関連を見出したり、概念化したりしています。また、生活作文や日記を書くということに代表されるように、自己を内省することもしています。こうして考えると、「書くこと」は「考えること」であるといえます。毎日、児童生徒が授業の中で書いているノートを見直すことは、「丁寧に書く」、「内容を理解する」力だけでなく、「考える」力を育てていくことにもつながります。

「考える過程」を大切に

式と答えだけ、板書を書き写しただけ……のノートになってはいないでしょうか。ノート指導で大切なのは、「考える過程」を大切にすることです。

右に示すのは、小学校理科の学習ノートの一例です。学習のめあてをもち、見通しを持って追究し、どんな結果が出て、何が分かったかという一連の思考の過程を、丁寧に整理し、自分の言葉で書き表しています。



「考える過程」を大切にしたノートの一例（小学校第4学年理科）

このように、「考える過程」が見えるノート指導を繰り返すことで、児童生徒は、考える手続きを習得し、筋道立てて考える力を身に付けていくのです。

児童生徒との「対話」を大切に

もう一つ、ノート指導で大切なのは、教師による評価です。称揚の花丸を付けることも大切ですが、今回、お薦めしたいのが、朱書きによるコメントです。「体積の変化を、水と空気とを比べて考えているところがすばらしいね。」など、どの考えがなぜよいのかといったコメントを具体的に書いていきます。すると、それをもらった児童生徒は意欲をかきたてられ、さらにノートの内容を向上させていくことでしょう。このように、ノート指導を通して、教師と児童生徒との「対話」が図られていくのです。

また、児童生徒で相互にノートを交換して見合ったり、ノート展示会を行ったりして、学習の進め方を学び合うチャンス設けることも有効です。

(担当・教科教育部)

羅針盤

第18号

平成21年9月11日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

安心できる居場所～中学校体育Ⅰ先生のメッセージ～

3年Ⅰ組は元気のいい男子生徒が複数いるクラス。休み時間にけんかが起きることもある。教室の机やロッカーには荷物があふれかえっていることもよくある。

『給食に命をかける!』学校生活で一番大切なのは給食。食べることがしっかりできて初めて他の活動ができる。給食＝命の源」というⅠ先生。

4時間目が終了すると、生徒たちは大急ぎでエプロン・マスクを着けながら配膳室前にやってくる。手洗いと服装が整った班から順に点検を受け、給食を教室に運ぶ。他のクラスが配膳を始める頃、3年Ⅰ組では「入れ～!」と集合がかかる。4月は、運動場でキャッチボールをして遅れて入っていた生徒も、図書室で読書に没頭していた生徒も、いつの間にか教室の付近で待つようになっていた。

合図とともにあっという間に全員がそろろう。他のクラスよりも10分以上は早い「いただきます」。元気のいい、このクラス。とにかくよく食べる。余った給食は、教室内の男子生徒のうち8割ほどが、分け合いじゃんけんを始める。激しく元気のいい生徒も、ほとんどしゃべらない生徒も。上手に公平に分け合う。この姿が何とも言えずほほえましい。



整理整頓が苦手な子は、荷物の片付けのみならず、情報の整理整頓も苦手である。

説明や会話の中から重要な情報に注目したり、必要に応じて取舍選択したりすることが難しい。一部しかとらえられずトラブルに繋がることもある。

先生が一番大切に思っているのは「食べること」。Ⅰ先生の明確なメッセージは一貫して繰り返し伝えられる。決してぶれない。重要な情報に注目しにくい生徒が多い3年Ⅰ組の誰もが徐々に、価値が何か分かってくる。給食時間にできる限り早く集合して、食べることに集中する。給食開始目標時刻は13:05。給食当番はその責任の重さを自覚し、誰もが役割にベストを尽くす。生徒たちの誰もが、何を要求されているのかが分かっているため、必要な者には手助けをし、自分ができることを精一杯するという状況が必然的につくられていたのだ。協力も共感も自然に生まれていた。

集団を動かす優れた技術は体育科ならでは。このⅠ先生、大声で叫ぶ姿も、生徒を叱りあげる姿も見ることがない。手先が器用で、竹で竹刀まで作られるという。紙細工の合格祈願達磨を3年生全員に作ってプレゼントするような職人気質。細やかなところまで生徒の様子をよくとらえて、穏やかに対応される。実は、3年Ⅰ組、授業中の集中力も意欲も徐々に増し、安定して落ち着いた授業ができるようになっていた。生徒たちは、Ⅰ先生に理解され、受け容れられていることを実感していたのだろう。「Ⅰ先生のクラスは、なんでか分からんけど毎年最後にはみんな落ち着く。」4月に聞いた主任の言葉に頷けた。



卒業前最後の給食の後、3年Ⅰ組は全員で配膳室前にやってきた。

「おいしい給食ありがとうございました。」いつも空の食缶に喜びを得ていた調理員さんたちは大きな感動に包まれていた。(担当・特別支援教育部)

羅針盤

第19号

平成21年9月18日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学級経営のねらい～2学期を迎えて～

夏休みが終わり、2学期の学級経営も軌道に乗りつつある頃と思います。この時期には、大きな学校行事もあります。同時に、児童生徒の不登校やひきこもり、いじめやグループ間の対立が顕在化する時期ともいわれます。この時期の学級経営上の留意点やねらいについて、いくつかまとめてみました。

1 項目に従ってチェックしてみてください。

日常生活指導では

- ☐ 夏休み明けの児童生徒の状態を、ていねいにチェックできていますか。
- ☐ 学年団の連携を深め、こまめな声かけ、観察とその情報交換を行っていますか。
- ☐ 学級の決まり、約束事、学校生活のルールを児童生徒に再確認させていますか。
- ☐ 2学期の学級としての目標や、年度後半の見通しなどを、児童生徒にはっきりと伝えていますか。
- ☐ 運動会や文化祭など学校行事の日程を把握させ、学級の役割分担や目標の共有によって、学級の団結力を高めていますか。
- ☐ ホームルームが安心できる居場所であることを児童生徒が感じ取れるよう、平素から工夫していますか。

授業・学習指導では

- ☐ 夏休みの課題の提出や休み明けの小テストを通じて、学習上の課題を確認できていますか。
- ☐ 友だちとの交流、学校行事への関わり、体験的な学習への取り組みなどを通じて、将来の進路について、「なりたい自分」像を描かせることができていますか。

2学期を迎えた学級の現状や、児童生徒への接し方について、振り返るきっかけになったでしょうか。こうした結果から伺える現時点での学級の現状を、4月に学級がスタートしたときに掲げた年間目標と比べてみると、現段階における学級経営上の課題がいくつか浮かび上がって来ます。いま、学級経営に何が必要なのかを知る手がかりにもなっていきます。

2 年間計画の見直しを

- ◎夏休みまで順調にいったからといって、2学期以降も同じようにいくとは限りません。
- ◎この時期、年間の学級目標と学級の現状を比較することで学級の課題を検証し、指導法や手だての部分的な手直しを考えていきましょう。
- ◎もしも、年間計画が作成されていないのであれば、1学期間のクラスの実状をふまえたうえで、2学期～年度後半にわたる長期計画を作成しておきましょう。

3 学級の目標や現状について、保護者への発信を

- ◎保護者と協働していくためのツールとして、学級通信を活用しましょう。
 - ・おりに触れ、学級の目標や学級の現状、指導の方針などを伝え、平素から理解を求めておきましょう。
 - ・夏休み後のクラスの様子を報告しましょう。(児童生徒の成長の様子や、よい面を伝えるように)
 - ・体育祭や文化祭の日程、準備計画(事前準備で休日に集まる予定の日時や場所を含めて)を伝えておきましょう。また、保護者に参加してほしい行事や取組を伝え、協力を呼びかけましょう。

(担当：教育経営部)

言語活動の充実

～思考力・判断力・表現力等をはぐくむ～

新学習指導要領では、思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、「言語活動の充実」が図られました。児童生徒が考えたことを互いに話し合ったり、自分の意見を論理的にまとめて記述したりする学習活動が、今後一層求められることとなります。しかし、平成21年度全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙の岡山県の結果を見ると、小学校では「感想文や説明文を書く」、中学校では「生徒の間で話し合う」といった言語活動に関わる項目に課題が見られました。言語活動を充実させるために、各教科等の指導において、どのような点に留意すればよいのでしょうか。

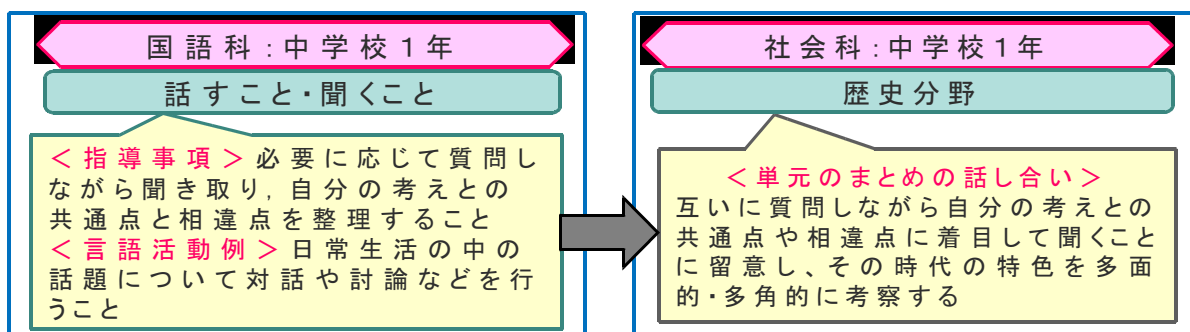
指導計画づくり

～国語科の言語活動との関連～

言語力を育てる中核的な役割を担う国語科では、学習指導要領に「記録、要約、説明、論述」といった言語活動が例示されています。これは、国語科における言語活動を分かりやすく示すことによって、各教科等において言語活動の充実を図るという意図があります。

そこで、各教科の単元計画や学習指導計画を作成する際には、小（中）学校学習指導要領解説国語編（平成20年8・9月）巻末の付録4「各学年の目標及び内容の系統表（小・中学校）」を参考にしたいかがでしょう。この系統表には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域別にそれぞれ見開き2ページで指導事項と言語活動例が示され、見やすい構成になっています。児童生徒が、いつの段階でこういった指導を受けているのかが分かり、他教科等での指導計画を構想する際に、大変参考になります。中学校を例に見てみましょう。

【他教科との関連を図った例】



国語科の言語活動との関連を図って社会科の授業を構想することで、言語活動の充実が図られるとともに、社会科本来のねらいもより達成しやすくなります。このように指導目標と学習内容を適切に配置しながら学習指導計画をつくることで、言語活動の充実が系統的に図られ、生徒に過度の負担を強いることなく、思考力、判断力、表現力等がはぐまれていくことでしょう。

(担当・教科教育部)

羅針盤

基礎・基本の理解と定着のために

第 21 号

平成21年10月2日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

教科指導におけるICT活用：1

フラッシュ型教材^{*} 活用のすすめ

*フラッシュ・カードのように、課題を瞬時に次々と提示するデジタル教材のこと。

「教育の情報化に関する手引」には「児童生徒の知識の定着を図るための教員の ICT 活用」の方法や場面の具体例として「ICT を用いたフラッシュ型教材等を活用することで、児童生徒が集中して取り組むことができ、効率的に知識を定着させることができる」と挙げられています。今回は「教科指導における ICT 活用シリーズ」の1回目として、フラッシュ型教材を活用した授業の様子とその効果について紹介します。

フラッシュ型教材で変化のある繰り返し

長篠の戦いで
かつやくした人物を
言いましょう。

織田信長

豊臣○○

○○○○が
江戸幕府を
開く

1573 織田信長が室町幕府を
ぼろぼろ
1590 ○○○○が全国を
統一する
1603 徳川家康が江戸幕府を
開く



「いつものように、前の時間の復習から始めるよ。覚えているかな？画面が変わった瞬間に、パッと答えてね。いくよ。これは？」

総社市立総社小学校第6学年担任の二澤弘和先生の社会科の導入の場面です。スクリーンに「織田信長」「豊臣秀吉」「徳川家康」の文字、肖像画、名前の部分を隠した年表等を、次第に問題の難易度を上げて提示していきます。子どもたちも次はどんな画面が出てくるのか、視線はスクリーンに釘付けです。二澤先生は「いいねえ」「すごい」と笑顔で誉めながら、問題を提示するテンポを上げていきます。誉められるので、子どももうれしそうです。

「毎時間、授業の導入3分間で、フラッシュ型教材を提示して、本時の学習に必要な知識の確認ができるようにしています。子どもたちの反応を見ながら、問題の順番や難易度を変えたり、答え方を変えたりして『変化のある繰り返し』を心掛けています。フラッシュ型教材を使い始めて、子どもたちをよく誉めるようになりました。」と二澤先生は、子どもに接する時と同じような笑顔で穏やかに語られました。

フラッシュ型教材は、ここに効く

富山大学の高橋純准教授はフラッシュ型教材の効果を実験的にまとめています。

■子どもの理解と定着を促す効用

- 目（文字、写真、イラスト）と耳から情報を得ることで理解が深まる。
- 繰り返しによって、理解が定着。
- 子どもの理解度に合わせて難易度をアレンジしやすい。
- 知識や技能の定着に効く。

■授業態度や姿勢への効用

- 顔が上がる。視線が前を向く。集中力が高まる。
- 大きな声が出る。活気づく。
- 自信がつき、学習意欲が高まる。

■授業＆授業準備の効率化

- 作成、共有、再利便が容易。継続しやすい。
- 短時間での復習や練習が容易で、わずかな時間を有効活用できる。

■その他

- さまざまな教科や学習内容で活用できる。

チエル・ドット・マガジン2009（チエル株式会社）より

フラッシュ型教材はプロジェクトを使って大きく映すと有効です。プレゼンテーションソフトを使うと、簡単に自作したり、修正したりすることもできます。また、インターネット上からも無料でダウンロードできるWebサイトもあります。

<http://eteachers.chieru.net/web/index.aspx>

子どもたちの基礎・基本の定着のために、ぜひフラッシュ型教材を授業でご活用ください。

予告

羅針盤 第27&33号

「教科指導におけるICT活用：2&3」

「大きく映してわかりやすく！

かんたん！実物投影機活用のすすめ」
をお届けします。お楽しみに。

（担当：情報教育部）

羅針盤

第 22 号

平成21年10月9日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

中間評価における取組の課題の明確化と改善策検討

10月を迎え、1年間のちょうど折り返し地点となりました。これまでの半年間の教育活動は、どのような成果を上げたでしょうか。分掌や学年、あるいは教科などの目標について、一度、この中間期で達成状況を確認し、取組の課題を明らかにして改善の方策を検討しましょう。そうすることで、後半の教育活動を一層の充実させることができます。今回はそのポイントと進め方の一例を紹介します。

ここがポイント！

★分掌や学年等を単位として所属する先生全員で行う

主任や主事あるいは課長一人に任せきりにするのではなく、同じ分掌や学年に所属する先生全員で行いましょう。そうすることで日々の教育活動を「まさに自分たち自身が行うこと」として共有化することができます。

★年度当初の目標を再確認することが後半の出発点

分掌や学年等の年度当初の目標は何だったでしょうか？何をどの程度まで達成しようとしていたのか、ゴールを再度確認し、現時点で十分達成できていない点について取組の課題を明らかにするとともに、後半に向けて取組のベクトルを合わせ直しましょう。

★改善策検討は優先順位をつけて

これまでの取組の課題について改善策を検討しましょう。ただしその際には、あれもこれもではなく、優先順位をつけることが肝心です。



カード式発想法を使った進め方

若手教員からベテラン教員まで、様々な立場の人の意見を集めて分析する際には、カード式発想法が有効です。その代表例がKJ法（発案者の川喜田二郎の頭文字をとって命名）ですが、ここではKJ法をベースにしながら、数人一組で取組の課題を明確化し、改善策を検討するやり方を紹介します。

《用意するもの》付箋紙、模造紙、マジック

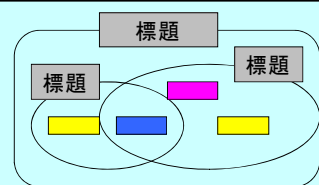
■取組の課題の明確化■

- ① 達成状況が不十分な点（このままでは最終的に目標が達成できない点）について、これまでの取組の課題を付箋紙に各自書き出す。その際にできるだけ多くの事項を書き出すことが大切。
- ② 一人ずつ付箋紙に書いた内容を説明しながら、付箋紙を模造紙に貼る。
- ③ 似た内容の付箋紙を集めてグループ化し、標題をつける。

標題の例：『家庭との連携』『生徒指導』『教職員間のコミュニケーション』等

■改善策の検討■

- ① どの標題のグループから改善を図るか優先順位を協議し、取組のターゲットを絞る。
- ② ターゲットについて改善策を付箋紙に各自書き出す。
- ③ 一人ずつ付箋紙に書いた改善策を説明しながら、付箋紙を模造紙に貼る。
- ④ どの改善策から着手するか、いつまでに達成するか、次にどの改善策に取組むかなどについて協議し、付箋紙を時系列や取組む順番に並べ替える。



参考文献：『学校組織マネジメント研修～すべての教職員のために～（モデル・カリキュラム）』

制作：マネジメント研修カリキュラム等開発会議 発行：文部科学省

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kenshu/O5031101/001.pdf

（担当・教育経営部）

羅針盤

第23号

平成21年10月16日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

もうすぐ読書週間 10/27～11/9

10月27日からの2週間、今年で63回目となる「読書週間 思わず夢中になりました」が開催されます。児童生徒が、本に「夢中」になる経験を積む、よいきっかけにしたいものです。「世界の情報伝達の流れが大きく変容しようとする中でも、情報の使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、『本』が重要な役割を果たすことはかわりありません。」という開催趣旨が示すように、読書で得られるものは人生全体において大きな財産となるはずです。

読書経験の大切さ

読書活動の充実は「言葉の力」を育成し、「確かな学力」を身につけ豊かな人間関係を築くための大きな一助となります。各校でも、朝読書や図書館でのブッククラブ・アニメーションなど、多彩な取組を進めていることと思います。平成21年度全国学力・学習状況調査において、岡山県の児童生徒は読書好きであるという結果が得られましたが、各校のこれまでの地道な取組の成果といえるかもしれません。

学校図書館や地域の図書館での調べ学習、読み聞かせなどで読書の幅を広げ、さまざまな考え方や感じ方に接することに喜びを感じた子どもは、読書の習慣が養われ、生涯にわたって読書に親しむ態度を持ち続けることができます。その中で、身のまわりの情報を整理し、他者に紹介したり自分なりの意見を述べたりする「情報を使いこなす力」も身に付いていくのです。

本と接する機会をできるだけ多く設定し、読書経験を自然と積ませてあげることが大切です。子どもたちがこれからの人生で本と上手につきあえるような仕掛けを、これまで以上に学校生活に取り入れていきませんか。



***** 各校での取組例 *****

- ◆ 児童朝会、読書集会・・・おもしろ読書事典を参考にして作ったクイズ、お薦めの本紹介
- ◆ 読書週間の取組・・・読書郵便、図書委員会による掲示物作成
- ◆ 環境整備・・・図書室までの通り道にクイズを掲示、廊下に読書コーナー
- ◆ 地域との連携・・・読書フェスティバル、ボランティアの活用、地域図書館との連携

学校での読書活動の工夫は、以下の資料集にもいくつか紹介されています。どちらも、岡山県教育庁指導課のホームページからダウンロードできるので、ぜひご活用ください。

○「言葉の力 学校園全体で取り組む事例集」(平成20年3月)

http://www.pref.okayama.jp/file/open.php?f=/uploaded/life/29430_104670_misc.pdf

○「おもしろ読書事典」(平成16年3月)及びその活用アイデア集 小学生向き

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/sido/omosirojiten/omosirojiten.htm>

(担当 教科教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/index.htm>

羅針盤

第24号

平成21年10月23日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校力向上サポートキャラバンで「出かけます！」

☆ **いま求められていること** …現在、様々な教育課題に対応するために、校長先生を中心とした、学校内での教職員の資質向上の取組（OJT）や校内研修を通しての人材育成が求められています。今回は、このような学校内での取組や研修を支援する岡山県総合教育センター「学校力向上サポートキャラバン」をご紹介します。

☆ **学校力向上サポートキャラバンとは？** …岡山県総合教育センターの指導主事が岡山県下の各学校の研究授業や校内研修あるいは地域の研修会に出かけ、校内研修の充実や地域の教育力・組織力向上のお手伝いをさせていただきます。

☆ **対象及び回数** …岡山県内の県市町村立学校、市町村教育委員会、市教育センター、小・中・高教研が依頼される場合、回数は原則として1校につき1回（年間）です。

☆ **研修内容は** …「出前講座」と「ニーズ対応」の2通りがあります。

・ **出前講座**；次のA～Jの内容からご要望に合う研修内容を選んでください。

- A 学校組織マネジメント
- B 学校評価の推進と学校の活性化

→ ご相談は
学校経営部(0866-56-9102)まで

- C 新しい学習指導要領が目指す授業づくり
- D 「言葉の力」育成のための授業づくり

→ ご相談は
教科教育部(0866-56-9103)まで

- E 学級づくり（対人関係能力の育成）
- F いじめ、不登校の理解と対応

→ ご相談は
生徒指導部(0866-56-9105)まで

- G 特別支援教育の推進と校内支援体制づくり
- H 発達障害児の理解と支援

→ ご相談は
特別支援教育部(0866-56-9106)まで

- I 授業でのICT活用指導力の向上
- J 情報モラル教育・情報セキュリティ

→ ご相談は
情報教育部(0866-56-9107)まで

・ **ニーズ対応**；各学校や市町村教育委員会のご要望に応じた内容に可能な限り対応します。
ご要望の研修内容に該当すると思われる部にご連絡ください。

☆ **ご依頼は** …学校力向上サポートキャラバンの依頼手順や依頼文書様式等については、当センターWebページをご覧ください。（Topページの「学校支援」から「サポートキャラバン」にお入りください。）

なお、特定の教科・領域等に依頼が集中した場合、日程調整等の結果、ご意向に沿えないこともありますので、ご了承ください。また、近隣の複数校合同で依頼していただければ、効果的に研修を実施できることもありますので、ご検討・ご相談ください。

☆ **派遣旅費は** …当センターが負担します。（小・中・高教研主催の研修は依頼者負担となります。）

羅針盤

第 25 号

平成21年11月6日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

今も、昔も、これからも－学校行事で繋がる教師と生徒－

体育祭を二日後に控えた、ある高校1年生の放課後の教室です。全ての机を教卓側に寄せてできた後ろのスペース一杯に、応援の為の壁画が広がっています。壁画に描かれているのはアニメの人気キャラクター。4, 5人の生徒達が楽しそうに、下絵に沿って色塗りをしています。「ここはもう少し明るい色の方がええんじゃないねん」と提案したのはA君。A君の提案に対して、他の生徒もこうした方がいいのではとか、それではここはどうするとか、それぞれの考えを出し合って作業が進んでいきます。

壁画作りの中心的な役割を果たしているA君は、普段の授業では居眠りをしていることが多く、宿題の提出状況もあまり良くありません。特に英語と数学は中学校のころから大の苦手のように数学科担当の担任の先生からは、授業態度と提出物について注意を受けることもしばしばです。そのような時のA君の反応は、「はあ～」といった程度なので、担任も本当にわかっているのかどうか、判断に困っています。特に、A君のクラスの英語科担当のB先生からは、顔を合わせる度に「いつ単語テスト直しが出るのかな」とか「夏休みの課題がまだ出とらんで」と催促されることが多く、A君にとっては苦手な先生の一人です。

そんなB先生が、「おう、大分出来とるなあ」と教室に入ってきました。A君はまた宿題のことを言われはしないかと、少し顔をうつむけます。「なかなかええ色合いで塗れとるが」と壁画の出来栄に感心しているB先生に、生徒の一人が、「デザインのほとんどはAのアイデアです」と伝えました。「へえ～。そうなんか」と驚いたようなB先生の反応に、A君も「ええ、はあ」とちょっぴり照れている様子です。B先生が、「すごいなあ。何か動き出しそうな迫力があるな。俺は絵が苦手だから、その才能はうらやましいな」とA君に話し掛けると、A君は、「そんな大したことは無いです」と、少し笑顔を見せて応えました。「先生も塗ってみますか」と、A君の傍らにいた生徒がB先生に声を掛けると、「絵が台無しになってもええんじゃない」とB先生も乗り気です。そんなB先生に、「じゃあ、この筆を使ってください」とA君は自分が使っていた絵筆を手渡しました。その時、「先生、本当に大丈夫なん」と声を掛けながら、部活動を終えた生徒が数人教室に入ってきました。「俺にもちょっと塗らして」と入ってきたばかりの生徒も、壁画作りに加わり、教室はにぎやかな雰囲気になりました。

B先生から注意を受けることが多かったA君にとって、自分の得意分野での活躍を認めてくれたB先生の声かけは、予想外のうれしい出来事だったと思います。また、B先生が生徒達の輪に入ってきたことで、B先生と生徒達の距離が一步近づいたようにも感じます。B先生にとっても、A君の意外な一面に触れることができ、A君についての新しい理解に繋がったのではないのでしょうか。

このように、体育祭や文化祭などの学校行事は、教師や生徒の相互にとって新しい発見の場であり、お互いの親密さを増すきっかけになると思います。積極的な生徒指導の絶好の機会として、学校行事に取り組んでいきたいものです。

(担当・生徒指導部)

◆eラーニング研修新着情報:「学校危機管理と教頭の役割(VOD)」(H21/10/23収録)

ログインアドレス <https://www4.edu-ctr.pref.okayama.jp/inavi/service>

※学習の流れ:①ログイン後、該当講座クリック、②資料ダウンロード、③視聴、④アンケート回答

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

第26号

平成21年11月13日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

家庭学習の指導 どうする？

子どもが、学ぶ楽しさを味わい、自主的・計画的な家庭学習ができるようになるために、どのように指導をすればよいのでしょうか。教師が行う指導について、家庭学習の習慣化、保護者へのガイダンス、子どもが行う点検・評価の3点から、考えたいと思います。

家庭学習の習慣化

子ども自身が、学習の進め方を理解できていることが大切です。学習の進め方には、量としての「学習時間」と、質としての「学習内容」が問題となります。前者では、学習計画の立て方、効率的な時間の使い方、後者では、予習・復習の仕方、読書、新聞を活用した学習等の学習の仕方について、発達段階に応じた指導をすることが必要です。また、教師が、提出された課題を丁寧に評価したり、与えた課題を授業で活用したりすることも大切です。

保護者へのガイダンス

家庭学習に向けての協力が得られるよう、通信や懇談等で学校・学年としての家庭学習の方針や取り組みを説明し、理解を得ることが大切です。その上で、家庭学習の意義や役割、学習計画の立て方、具体的な学習方法、点検や評価の方法等をまとめた「家庭学習の手引き」を作成し、家庭での活用を促すと効果的です。



子どもが行う点検・評価

子ども自身が自己点検・自己評価しながら改善していく力を身に付けることが大切です。そのためには、学習計画や成果を記入し、計画に合わせたかどうかを点検できるカードの活用が効果的です。また、計画に合わせてできなかった場合は、子ども自身がその要因を振り返り、学習方法を見直すことができる指導も必要です。さらに、子ども同士で家庭学習を紹介し合う等の工夫も考えられます。

「学習の手引き」の活用

家庭学習の指導に、『学習の手引き』（岡山県教育庁指導課）を活用し、学校の実態に応じて見直してみるのはいかがでしょうか。『学習の手引き』の一部を紹介します。

- 1 自己診断 自分の力を伸ばすために
 - 学習習慣・生活習慣の傾向・今後の目標
- 2 自学自習力を高めるために
 - 授業中の様子を振り返ろう
 - 学校の授業の受け方
 - 家庭学習：はじめの一歩
 - 家庭学習診断シート
 - タイプ別家庭学習のポイント
 - ワンランクアップの家庭学習
 - 家庭での学習時間を増やすには？
 - 家庭生活を振り返ってみましょう
 - 家庭生活集計シート
 - 家庭生活プランニングシート

※『学習の手引き』のURL

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=42542

学力ワンランクアップの家庭学習

めざす家庭学習とは「与えられた宿題をこなすだけでなく、自分の学習を振り返り、自主的に学習することです。30分でも継続的に取り組むことで力がつきます。今日から「ワンランクアップ」に挑戦！

国語編
(中学校・高等学校)

予習・復習の積み重ねを！

◆ これからの学習を効果的にする準備をしておこう！

■ 予習

【レベル○】
分からない言葉、漢字の読みなどがなを辞書で調べたり、音読したりして、わかる範囲で問題をこなしておく。

■ 復習

◆ 教科書やノートを確認しながら学習したことを振り返ろう！

【レベル○】
重要なポイント、自分の考えたことについて文字の色を変えてまとめたり、図や線などの資料を取り入れたりして、ノート効果的に整理する。

【レベル○】

学習してもっと知りたいと思ったことは辞書や本、インターネットなどを使って調べる。また、間違えたところは後回しにせず、必ず克服しておく。

新聞やコラムを読もう！

◆ 新聞やコラムを読み、文章の工夫点を学んだり、視野を広げたりしよう！

■ 新聞

【レベル○】
新聞は身近な説明的文章の宝庫。文章の構成や表現の仕方を参考にし、自分の日記の書き方に生かしてやる。

■ コラム

【レベル○】
気に入った言葉や言い回しは書き留めておく。日記や意見文の作成に積極的に取り入れてみる。また、読んだ感想を書き留めておく。「新聞・コラム感想集」を作ってみる。

読書を楽しもう！

◆ 毎日の読書で、国語の基礎体力の大幅アップを図ろう！

■ 毎日

【レベル○】
毎日10分ずつでも、2〜3週間続ければ、まとまった分量を読むことができる。様々な文章を読むことで、読解力も高まる。好きな分野から始めて、しだいに広がっていく。

◆eラーニング研修新着情報：「学校危機管理と教頭の役割(VOD)」(H21/10/23収録)

ログインアドレス <https://www4.edu-ctr.pref.okayama.jp/inavi/service>

※学習の流れ：①ログイン後、該当講座クリック、②資料ダウンロード、③視聴、④アンケート回答

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

(担当・教科教育部)

教科指導におけるICT活用:2

デジタルコンテンツとデジタルカメラ活用

「教育の情報化に関する手引」(文部科学省, 平成 21 年 3 月)には,「児童生徒のつまずきを防ぎわかる授業を実現するために, また, 思考や理解をより深めるためには, 映像等を組み合わせながら説明をすることが大切である。そのために ICT を活用することは大きな効果を発揮する。(P.35)」と述べられています。

今回は「教科指導におけるICT活用シリーズ」の第2回として, デジタルコンテンツ(動画)とデジタルカメラを活用した保健体育科の授業の様子とその効果について御紹介します。

教科指導における ICT 活用では, 学習指導の準備と評価のための教員による ICT 活用, 授業での教員による ICT 活用, 児童生徒による ICT 活用の三つに分けられますが, 今回の授業では 1 時間の中で, この三つの要素すべてが含まれています。

教員による ICT 活用



「お手本の動きをよう見て。いくよ。倒立の後, どこからマットについとる?」

岡山市立高島中学校, 市川善隆先生の保健体育科「マット運動・倒立前転(第2学年)」の授業導入場面です。このコンテンツでは, 右上画面の白い矢印上を左右にドラッグすると必要なだけ演技者を動かすことができます。今回のように電子情報ボードを活用すればより効果的で, 教師や生徒自身が指でなぞって演技者を必要なだけ動かすことができます。こうしたコンテンツは, 生徒にとってその演技のもつリズムとイメージをつかみやすくします。従来の教師が各グループを回って個別支援することと合わせて, 生徒の課題解決につながると考えられます。

平成 16 年度に文部科学省の委託事業として, コンテンツ開発に関わっていただいた市川先生は, 以来, 毎年, 器械運動ではコンテンツを活用した授業を展開しておられます。器械運動でのコンテンツ活用について先生は, 授業目標の焦点化, 生徒の関心・意欲の高まり, それらの相乗効果によるグループ活動の高まりについて効果を感じておられます。

生徒による ICT 活用



この授業では左上の写真のように, 生徒自身も練習中, 画面に自由にさわって, 演技のコツをつかもうとしています。さらに, 右上の写真では, 各グループで 1 台ずつ, デジタルカメラを活用しています。グループ内で協力し合いながら交代して撮影し, 自分の演技をカメラの液晶モニタ部分で確認し, 手本コンテンツと比較しています。このため, 電子情報ボードやデジタルカメラを見ながら, 生徒たちは学習課題について自然に話し合っていました。

「教育の情報化に関する手引き」でも, 器械運動で「デジタルカメラの動画機能などを用いて, 自己の課題に応じた練習を工夫するために, 自分の動きを撮影し, 動きや技の改善点や高まりを見付ける(P.44)」ことが具体例として示されています。

なお, 今回活用したコンテンツは, 当センターの Web ページにある「体育で使えるデジタルコンテンツ」です(下記 URL)。

<http://www2.edu-ctr.pref.okayama.jp/hotai2/>

「教科指導における ICT 活用」について, 第 1 回で「フラッシュ型教材」, 今回は「デジタルコンテンツ」の活用をお伝えしました。次回は最も日常的に活用できる「実物投影機」です。

(担当; 情報教育部)

羅針盤

第 28 号

平成21年11月27日(金) 発行
岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

受講者の声 次回が楽しみ！と思えた講座

－生徒指導・教育相談研修講座－

生徒指導部が開催した研修講座でも、「次回が楽しみ、別の講座も受講してみたいくなった」という感想をお寄せいただいています。どんなところに魅力を感じたのか、受講者の方に伺いました。

疑問や悩みが解消した

不登校の生徒を抱えています。登校刺激をして良いのか、今の対応で良いのか自信が持てず悩んでいました。子どもの状態を理解するためのポイントを知り、支援の方向性がわかりやすくなりました。校内の職員にも是非伝えたいと思います。支援の方向性を検討する際に、子どもの状態を共通理解することができるので、チームでの支援がしやすくなると思います。(基礎コース受講者)

多くの人と交流し癒される

年々対応に苦慮する事例が出てきて、背負うものが重くなっていましたが、参加者全員が一生懸命受け止めてくださり、親身なアドバイスもいただけて本当にありがたかったです。日頃の疲労感が癒されました。(リーダーコース受講者)



苦手意識から楽しみに

生徒指導という分野には、とても苦手意識があったのですが、4回の基礎コースを受講して、グループの方たちと意見交換しあううちに、苦手意識より研修を楽しみにする気持ちの方が強くなりました。また、教師としての自分について考える良い機会にもなりました。(基礎コース受講者)



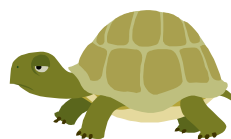
校内研修で役立てた

いつも校内で行う事例検討では、情報交換だけで終わってしまい、なかなか支援策を出すところまでいけませんでした。講座で事例検討の進め方やエコマップ、地域連携リソースマップを活用した演習を体験し、これは使えると思いました。さっそく、校内研修で活用してみました。ロールプレイングで、いろいろな立場の人の気持ちを体験していたことも、お互いを生かした支援を考える上で役立ちました。(リーダーコース受講者)

お知らせ

12月と1月の医師による教育相談の日が
以下のように変更になりました。

12月9日(水)・1月13日(水)



(担当・生徒指導部)

羅針盤

第29号

平成21年12月4日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

第61回人権週間が始まりました 12/4～12/10

1948年12月10日、基本的人権及び自由を尊重し確保するために、世界のすべての人々とすべての国々が達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択され、国際連合はこの採択日を「人権デー(Human Rights Day)」と定めています。

12月4日から10日までの人権週間にあわせて、人権コーナーの設置や作文・標語づくり、学級通信やPTA新聞等を通じた人権教育の成果の発信など、人権を尊重する校内環境づくりを工夫してみてはいかがでしょうか。ここでは、平成20年3月に策定された「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」から、人権教育に生かせるポイントとして、人権尊重の視点に立った教室環境づくりの取組例について紹介します。



人権尊重の視点に立った教室環境づくり（例）

取 組	内 容
人間関係を深め、安心して生活・学習ができる場づくり  岡山県人権啓発シンボルマーク	○前面に、学級目標（目指す子ども像）を掲示する。また、それを児童生徒の自画像で囲むなどして、一人一人の帰属感を高める。 ○学級組織（係）ごとのコーナーを設け、学級への願いや要望、よりよい学級生活をつくるための問題提起を行う。 ○「学級の歴史」コーナーを設置し、一人一人が学級づくりに参画している実感を持たせる。 ○「今月の誕生日」、「私の好きな言葉」、「本や音楽の紹介」等のコーナーを設け、児童生徒の相互理解や交流を深めるきっかけとする。 ○「気持ちを表す言葉」、「聞き方・話し方のスキル」など、コミュニケーションを円滑にするための手がかりとなるポスターを示す。 ○学習で使ったものや学習内容の要点を示す掲示物を貼り出し、学習内容の振り返りや、課題解決のヒントとして活用する。 ○学習の成果物（作品等）を掲示する。その際、児童生徒自身の解説や評価（自己評価、他者評価）、教師の評語を添え、達成感や有用感、肯定的なセルフイメージの形成を図る。
課題意識を高める場づくり	○児童生徒に話題を提供したり、問題意識を喚起するような情報を意図的に掲示する。 ○学習内容に沿ったクイズやコラムなどを掲示したり、児童生徒が関心を持った時事的・社会的な情報を掲示する「切り抜きコーナー」を設置したりして、日常の学習を広げたり、学習課題設定のきっかけにしたりする。

このほかにも、「第三次とりまとめ」には学校としての組織的な取組と関係機関等との連携、人権教育の指導内容と指導方法など、多くの具体的な事例が紹介されています。人権週間を機に、人権教育の取り組みを見直すきっかけとして、「第三次とりまとめ」を活用してはいかがでしょうか。

「第三次とりまとめ」は、各校に配置されたもののほか、インターネットでもご覧いただけます。

※「第三次とりまとめ」のURL（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm

（担当・教科教育部）

羅針盤

第30号

平成21年12月11日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

コミュニケーション ～通じ合うこと～

家ではたくさんおしゃべりができるのに、幼稚園に行くと誰にもお話ができなくなってしまうマミちゃん（仮名）。先日、幼稚園でこんなことがありました。

給食後の歯磨きの時間のことです。担任の先生は他の子どもたちへの対応に追われていてその場におられず、マミちゃんは何もできないまま鏡の前で立ち尽くしていました。先生が気付いたときには、涙をいっぱいためて悲しそうな表情でうずくまっていたのです。実は、マミちゃんは給食後の歯磨きが自分一人では始められません。先生に「歯磨きをやろうね」と声をかけてもらおうと、初めて安心して取り組むことができます。マミちゃんは何でも丁寧にできるのですが、行動に慎重なところがあって、活動を始めるときには、先生からのOKサインがほしいようです。その場でちょっと声を出して、自分から確かめることができればいいのでしょうか…。

そんなマミちゃんなのですが、保育サポーターのミキ先生（仮名）がそばにいと、ちょっと様子が違います。硬い表情が緩んで、くすくすと笑ったり、今にも声を出すのではないかとというくらい生き生きとした表情になったりします。それだけではなく、ミキ先生には自分からかかわろうとして手をつないだり、膝の中に入っていくたりします。また、自分の頬とミキ先生の頬とをくっつけながら視線を近づけて、私を見てほしいというメッセージを送ることもあります。

自分からの発信が苦手なはずのマミちゃんが、ミキ先生には心を開いているように思えます。ミキ先生はマミちゃんに対してどのようなかわりをされているのでしょうか。

ミキ先生はマミちゃんとのかわりについて、次のように話してくださいました。「私は、マミちゃんが話をしなくても、コミュニケーションをとる上で問題を感じていません。かえって、他の子どもたちよりも、マミちゃんの表情が豊かであると感じる瞬間もあるくらいです。マミちゃんには人とかわる力があると思います。その力を信じて待つことで、マミちゃんはきっと自分からステップアップするような気がしています」



ミキ先生は、視線、表情などからマミちゃんの今の気持ちを読み取っておられます。また、ありのままのマミちゃんを丸ごと受け入れておられます。つまり、ことばを発しないマミちゃんのことを、言葉の表出が不十分な子どもととらえ、変わることを求めているのではなく、今のマミちゃん存在そのものの（話すことができないことも含めて）を肯定してかわっておられます。そんなミキ先生の思いは、普段の眼差しや声かけ、表情などににじみ出ているのではないかと思います。マミちゃんは敏感にそれを感じ取り、自分を受け入れてくれる存在として、ミキ先生に心を開いているのではないのでしょうか。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の研究紀要¹⁾に、教師と子どもとの関係を良好にしていくための視点の一つとして「その子らしさを肯定的に捉えること」という項目が挙げられています。子どもたちの苦手なこと、できにくいことを不十分だととらえて、「改善しなければ」と考える前に、まず、その子自身（苦手な部分、できにくい部分を含めて）を丸ごと肯定的にとらえることが、通じ合う関係のベースにあるのだと思います。

近い将来、マミちゃんは、幼稚園の友だちや先生の前で、自分の思いをことばで表現できるのではないのでしょうか。ミキ先生からのその後の報告を楽しみに待ちたいと思います。（担当・特別支援教育部）

1) 独立行政法人国立特別（現 特別支援）教育総合研究所研究紀要第 28 巻（2001）「コミュニケーション障害研究における『関係論』をめぐる諸問題—言語障害教育の分野を中心として—」

羅針盤

第 31 号

平成21年12月18日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校が新しく変わる秘策 ～学校の手の打ちどころ～

11月18日、小・中学校教務担当者研修講座・高等学校新任教務担当者研修講座合同で、「教務担当者としての学校組織マネジメント概論及び課題解決策の秘策」と題して、兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授 浅野良一先生に講義・演習をしていただきました。笠岡市ご出身の先生は、郷土岡山のために学校改善の秘策を具体的に教えてくださいました。以下に秘策をお伝えします。

秘策① 戦略・ビジョン

各学校の教育目標は、学習指導要領を受け、児童生徒の「生きる力」を育成するために、知・徳・体のバランスを加味したものとなっており、なかなか変化するものではありません。

そこで、何を変えるかということ、児童生徒の実態・家庭地域の実態・学校評価等を考慮して、各学校の**重点目標**（重点事項）を変えていくことです。

それもたくさん作るのではなく、**3つから5つ**にしぼって、児童生徒・家庭地域に明確に伝えることが大切です。

マネジメントの言葉の中に、「選択と集中」という言葉があります。特に1つにしぼって考えることで、力を集結し、一点突破・全面展開を目指すわけです。

秘策② 組織構造

学校は、フラット型組織です。一人一人のアイデアや創意を生かして話し合い、**創造的に問題を解決**していくことができます。前向きな議論をすることによって、思いもかけない解決策を発見したり、さまざまな課題にすばやく対応したりすることができます。学校のもつ、このような長所をもっと活用すべきです。

また、学校はマトリクス組織だと言われている。一人が多くの分掌を持っているので、仕事の目的や意義を見失いやすいという短所があります。そこで、例えば今年度は教科の軸に重点を置くなど、どこに主を置くのか主軸となるものを明確にし、それに向かって一人一役ではなく、チームとして課題解決に向かうことが有効です。



SWOT分析をしている様子

秘策③ 運営のしくみ

学校は、内外の環境状況を的確に把握し、その状況を全教職員で共有し、解釈することが大切です。そのためには、SWOT分析を全教職員で取り組むなど、常に**情報を共有**できるしくみ（場）を作っていく必要があります。その時に、お互いの気づきを自由に発信できる教師集団でありたいものです。

コミュニケーションはとても大切です。アイデアを出し合うことで思いがけない改善が生まれることもあります。

秘策④ 外部との関係

学校の中で、一番変わりにくいのは、教職員の能力・意識・行動だと言われています。そこで、そこに手を打つためには、**外部との関係**を変え、外の風を上手に学校に入れることが必要です。

例えば「学校へ行こう週間」を設け、保護者だけでなく地域の方に学校に来ていただいたり、校種を越えて授業を見合ったりすることを通して、意識が変わっていくことがあります。

先生方お一人お一人の力が学校を変えていくのです。

(担当・教育経営部)

羅針盤

第32号

平成21年12月25日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

『心豊かなおかやまっ子』育成！～道徳教育の充実～

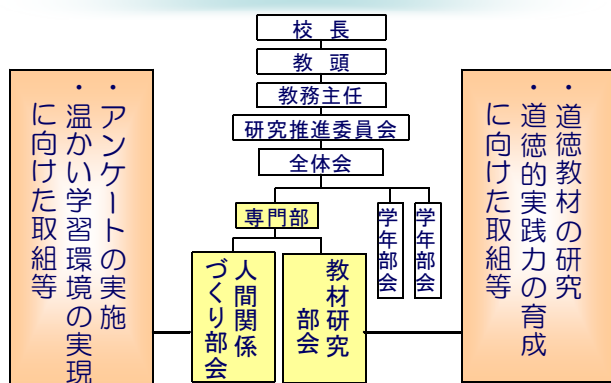
就学前から高校段階までの「心の教育の充実」に向け、本県では「心豊かなおかやまっ子育成事業」を立ち上げ、道徳教育の充実に取り組んでいます。道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われるものですが、喫緊の課題として次のような点があげられています。

- ① 校内体制・・・道徳教育推進教師を中心とした体制づくり
- ② 全体計画・・・実際に活用できる有効で具体性のある全体計画の作成
- ③ 授業公開・・・「道徳の時間」授業公開の促進

これらの課題の解決に向けて、当センターの研修講座で提案された各校の取組や各市町村で開催される道徳部会で協議された内容の中から、一部を紹介します。

……道徳教育推進教師を中心とした校内体制づくり……

協力・指導体制づくり(研究組織づくり)



協力・指導体制づくり(校内研修の実施)

- 道徳担当と原案検討
- 企画委員会に原案提出
- 指導案の原案作成
(各学年道徳担当者)
- 指導案の原案提示
- 校内研修【指導案検討】
※全学年で共通のねらいを設定
- 授業の実施
- 実施後の反省・検討



……授業公開の促進 ～「道徳の時間」授業のポイント～……

A市道徳教育研究会では、会長の校長先生をはじめとして、道徳教育推進教師を中心に、授業公開をもとにした研修会を毎年実施しています。研修会では、「道徳の時間」の授業づくりのポイントについて、次のような内容を共通理解し、研修を深められました。

授業づくりのポイント

人間としての生き方にかかわって
何を考えさせるか

資料の吟味



発問構成の工夫

- ◆ 例えば、読み物資料を利用する場合、資料の筋を追って登場人物の心情の変化を推し量るだけでなく、**人間としての生き方にかかわって子どもに何を考えさせるのかという視点で資料を吟味**することが大切です。共感を中心に・・・感動を大切に・・・葛藤を取り上げて・・・批判的な見方で・・・等、資料の特徴を生かした学習過程の工夫が望まれます。
- ◆ 発問を構成する場合、子どもと教師、子ども相互の**対話が深まる発問を準備**することが大切です。相互の考えを深めるために、二人一組の対話、小集団の話し合い、学級全体での討論などを効果的に取り入れるなどの工夫が望まれます。

〈学習指導要領解説道徳編(文部科学省平成20年3月)より一部引用〉

※参考：岡山県教育庁指導課が作成した指導資料「共に生きる～豊かな心、社会性を育むために～」にも様々な実践事例が紹介されています。(教科教育部)

羅針盤

大きく映してわかりやすく！

第 33 号

平成22年1月8日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

教科指導におけるICT活用：③

かんたん！実物投影機活用のすすめ

「教育の情報化に関する手引」には「映像をタイミングよく教員が大きく映して提示したり、提示した映像などを指し示しながら発問、指示や説明をしたりすることで、ICT活用による効果が期待できる。」と挙げられています。しかし、コンピュータや実物投影機等の映像をプロジェクタや大型ディスプレイ等で大きく映すだけで、学力が向上するとは単純に考えることはできません。指導のねらいや児童生徒の実態に応じた題材や素材を教員が十分吟味して選んでいくことが重要です。さらに、各教員が経験を積み重ねて得られた指導力に、ICT活用が適切に組み合わせられることで効果が得られます。今回は「教科指導におけるICT活用シリーズ」の3回目として、**実物投影機を活用した授業の様子と活用場面**についてご紹介します。

やり方のモデルを示す 実物投影機を活用する場面はどこ？



「それでは“裏ごし”のしかたを説明します。この“裏ごし器”の目に対して、しゃもじを斜め45度の角度から使います。このような感じです。」

岡山県立新見高等学校の菅野真実先生の家庭総合の授業で、実物投影機を使って、手元を映しながら調理の仕方や注意点を教える場面がありました。従来の授業では、まず、口頭で大まかな説明をおこない、生徒を自分の周りに集めて調理の仕方を教えたり、何人かの生徒に実習をさせ、机間指導をしながら、調理の仕方を教えるということもあったようです。しかし、実物投影機を使うことで、実際に使う調理器具等を大きく映して、全員に対して、簡潔に調理の仕方を教えることができました。

さらに、実物投影機を使って授業を進めていくうちに「単に大きく映せばわかるというものではなく、授業中の発問や指示のしかた、説明のしかたの大切さがわかってきました。実物投影機等のICT機器と授業中の適切な発問や指示のしかたのうまい組み合わせがポイントですね。」とされていました。

授業の「導入－展開－まとめ」の流れの中では、「明確な説明」のために活用していくことが前提となります。今回紹介した授業場面だけでなく、授業の導入場面であれば「動機付け」や「課題の提示」のために、展開であれば「理解を深める」ために、まとめであれば「ふりかえり」や「知識の確認」のためにも活用することができます。また、「モデル・失敗例の提示」や「情報の共有・比較」にも活用することができます。

最後に、富山大学人間発達科学部・准教授 高橋純 先生が、2006年1月～10月に、小学校教員27名（教員歴やICT活用歴はそれぞれ異なる教員を含む）を対象に調査した「ICTの活用意図（下表）」をご紹介します。

順位	活用意図	件数
1	理解を促すために写真や実物、考え方を示す	1218
2	小さなものを大きく映す	508
3	子どもの手元に無いものを示す	426
4	やり方のモデルを示す	365
5	子どもに作品やアイデアを発表させる	241
6	映したものに書き込む	177
7	活動の段取りや指示を示す	115
8	子どもの作品やアイデアを示す	111
9	習熟のために繰り返し示す	48
10	2つ以上のものを映して比較する	35

授業をよりよくしていくための、“お助けグッズ”として、ぜひ実物投影機をご活用ください。

実物投影機については、1/23(土)の自主研修所での「ICT自主学習会」でより詳しく学習することができます。センターホームページでご確認ください

(担当；情報教育部)

羅針盤

第34号

平成22年1月15日(金) 発行

岡山県総合教育センター

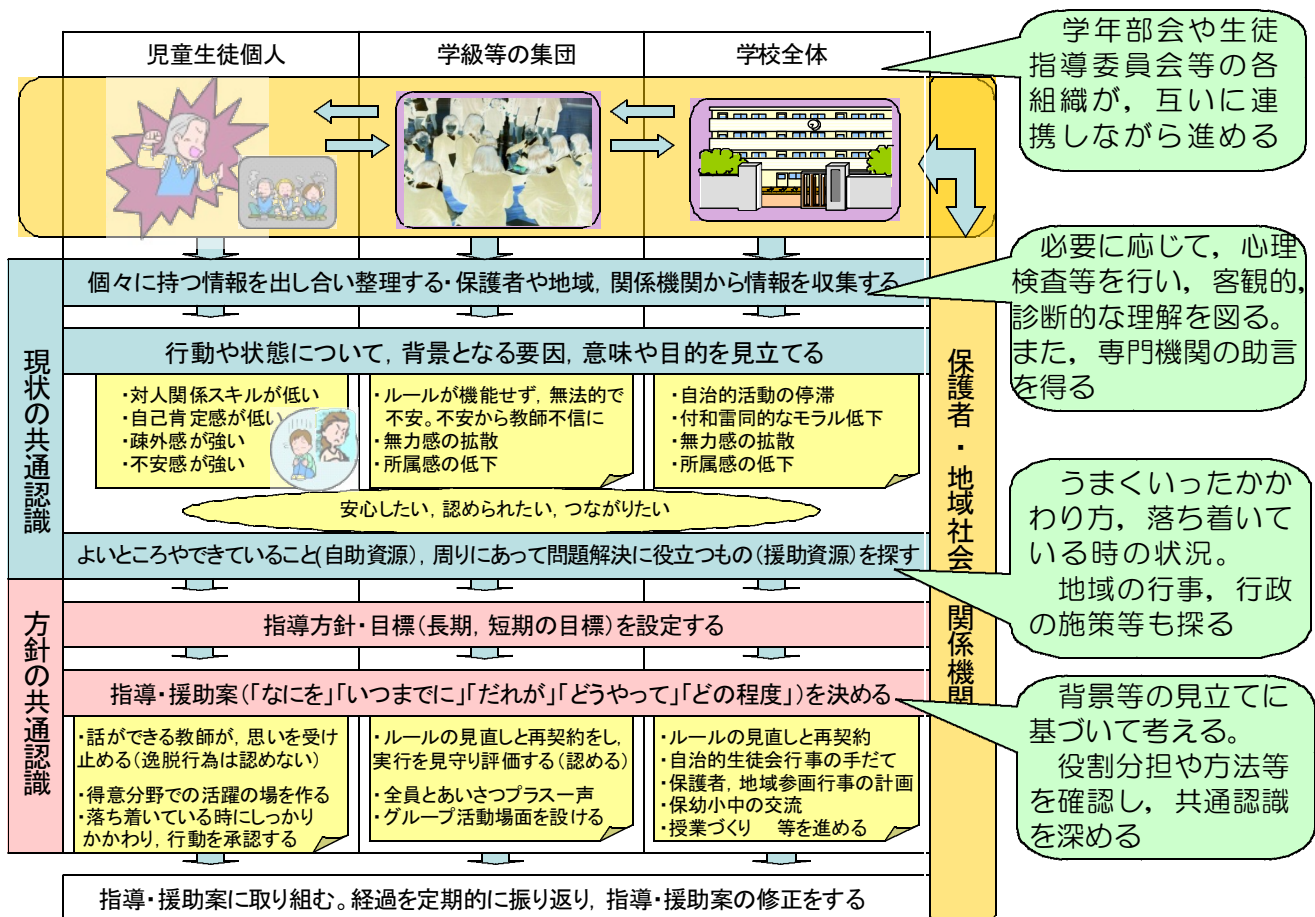
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

問題行動等の予防に向けて

昨年11月30日に文部科学省から平成20年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果が公表され、中でも、暴力行為の発生件数3年連続増加は報道機関でも大きく取り上げられました。今回は、成果を上げた学校の実践を参考に、暴力行為をはじめとする問題行動等の予防策を考えるプロセスと取組のポイントを紹介します。

○問題行動等の拡大防止と予防策を考えるプロセス

問題行動とは、子どもの背後に隠された「問題」を「提起する行動」である（問題行動調査研究委員会 2001）。この理解に基づいて予防策を考えるプロセスの例を次に示します。



○予防に向けた取組の主なポイント

- ・ 共通認識の下、一貫性のある対応を進めるために、情報収集と背景等の見立てを丁寧に行う。
- ・ 学級等で真面目にがんばる児童生徒を承認する。状況に応じて学級通信等でも紹介する。
- ・ 自治的な活動の機会を設け、取組の過程や成果について児童生徒に「意味づけ」を行う。
- ・ 学校を地域や関係機関に開き、協働的な連携を進める。(地域での体験的活動は児童生徒にとってコミュニケーションを学ぶ場となり、人とのかかわりの中で自信を高める機会ともなる)

様々な要因が絡まる問題行動等の予防や対応には、相応の細やかな手だてや取組が求められます。地域、関係機関と連携し、児童生徒の変容を認め合いながら取組を進めたいものです。

(担当；生徒指導部)

羅針盤

第35号

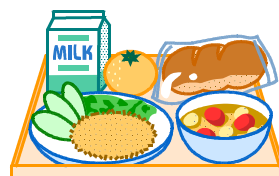
平成22年1月22日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

「全国学校給食週間1/24～30」が始まります！

「脱脂粉乳、コッペパン、先割れスプーン、ランチルーム、米飯給食、セレクト給食・・・」みなさんは、学校給食からどのような言葉をイメージされるでしょうか。言葉をイメージするだけで、「私の時代はね・・・」とそれぞれの生きてきた時代を語り、どんな食事を、どんな場所で、誰と、どのように食べたのか、その当時の思い出に花が咲くという、不思議な力が学校給食にはあります。しかも、毎日繰り返されるのが、学校給食です。「生きた教材」といわれる所以がここにあります。



平成21年度は、初めて日本で給食が提供されて、120年の節目の年です。学校給食週間を機に、給食の実施の有無にかかわらず、給食、弁当、朝食など、食を話題にした取り組みを各校で工夫して推進していただければと思います。

・・・食に関する指導目標・・・

学校では、家庭、地域と連携しながら、学校給食や教科等を関連させ、教育活動全体を通じて総合的に食育を推進することが求められています。「食に関する指導の手引き」（文部科学省 平成19年3月）には、「食に関する指導目標」とその指導内容について例示されています。

- ☐ 食事の重要性・・・食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解
- ☐ 心身の健康・・・望ましい栄養や食事のとり方の理解、自己管理能力
- ☐ 食品を選択する能力・・・正しい知識・情報に基づく食品の品質・安全性に対する判断力
- ☐ 感謝の心・・・食物を大事にし、生産等にかかわる人々へ感謝する心
- ☐ 社会性・・・食生活のマナー、人間関係形成能力
- ☐ 食文化・・・地域の産物、食文化、食にかかわる歴史等の理解と尊重する心



「食育」の推進と「学習指導要領」

中央教育審議会の答申において、食育は「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」として示されました。これを受け、小・中・高等学校の新学習指導要領総則において「学校における食育の推進」が、幼稚園教育要領「健康」の内容において「食」が新たに加えられ、関連する教科等においても「食育」に関する記述を充実させています。

これまで、各学校において食育を推進してきており、一定の成果もみられています。しかし、健康な生活を送るためには、健全な食習慣が大切であることは「分かっている」にもかかわらず、「実行する」ことは難しい現状があります。今後は、学級全体での指導とともに、個の課題に応じたきめ細やかな指導を充実させるなど、指導の「継続性」と「質的向上」が求められてきます。

各学校では、本年度の教育課程の評価と次年度の計画・立案の時期を迎えているのではないかと思います。上記の「食に関する指導目標」と照らし合わせながら、各校での取り組みを見直し、実態に応じた指導の目標を立て、各教科等の特色を生かした食育の推進が望まれます。

(教科教育部)

羅針盤

第 36 号

平成22年1月29日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

【学校教育から社会への移行支援】

平成 19 年 4 月に文部科学省から「特別支援教育の推進について」の通知が出され、「特別支援教育」が本格的にスタートしました。岡山県においても、特別支援教育に関する「校内委員会」の設置や学校の中で中心になって特別支援教育を推進する役割を担う「特別支援教育コーディネーター」の指名、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成など、特別支援教育の体制整備が進んでいる状況が見られます。体制を整備し、校内での支援を充実することと併せて重要なことは、就学前から小学校へ、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へといった次の段階へのスムーズな支援の引き継ぎを「個別の教育支援計画」などを活用して行うことです。また、高等学校から社会へのスムーズな移行を支援する取り組みも今後必要と考えられます。

特別支援学校では、高等部から社会に出る、すなわち、次の進路先（就労、福祉的就労等）に進むにあたって、個別の移行支援計画を作成し、それを基にした移行支援会議の取り組みが数年前から行われています。岡山県内のある特別支援学校の高等部で取り組んでいる移行支援会議の内容は次のようなものです。

移行支援会議

目的

- ・学校から社会への移行にあたって、生徒本人を中心に据えた学校と関係機関による支援ネットワークを形成するための協議を行う。
- ・卒業後の生活に向けた生徒本人と家族のニーズを学校と関係機関で共通理解する。
- ・生徒本人の将来の生活へのニーズを実現していくために、現時点でどのような支援が可能か、今後どのようなサービスが必要とされるか検討する。

時期、場所、対象、参加者

- 時期：2月中旬
場所：生徒の在籍校
対象：高等部3年生生徒および保護者
参加者
- ・希望する高等部3年生生徒および保護者
 - ・学校関係者（進路指導主事、担任）
 - ・行政関係者
(市障害福祉課、社会福祉事務所、ハローワーク)
 - ・福祉関係者
(地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター)
 - ・生徒が希望する施設および企業の関係者

本人・保護者、学校関係者、行政関係者、福祉関係者、進路先の関係者が「移行支援会議」の場集い、企業等の進路先に本人がスムーズに移行できるようにするために必要な支援が協議され、そのためのネットワークが形成されていきます。「移行支援会議」は「個別の移行支援計画」に基づいて行われます。次のページに個別移行支援計画の書式の一例として、上記の「移行支援会議」の取り組みで採り上げた特別支援学校の書式をお示しします。個別の移行支援計画は決まった書式があるということではなく、各校で工夫して作成されています。

現在、高等学校においても特別な支援が必要な生徒が在籍しています。高等学校から大学や企業などの進路先にスムーズに移行できるような支援は今後の重要な課題の一つと考えられます。特別支援学校の移行支援の取り組みや個別の移行支援計画の書式が高等学校卒業後の有効な移行支援の手だてとして参考になるのではないのでしょうか。

(担当・特別支援教育部)

個別の移行支援計画

写真貼付	卒業年度	平成 年度	アフターケア担当者	療育手帳 A・B 身体障害者手帳 有・無 障害程度区分 1 2 3 4 5 6	
	氏 名 ふりがな				男・女
		平成 年 月 日生			
	進 路 先	名称			
		住所 〒			
TEL - - 担当者:					
撮影:平成 年 月 日	進路先入社・入所年月日	平成 年 月 日			
通勤方法:		作業内容:			
連絡先(自宅等)	住所: TEL -				
	保護者名(続柄): ()				
履 歴	会社・施設名	業種・種別	本人の作業内容	転退職・退所の日付・理由	
将来の生活についての希望					
必要と思われる支援内容					
具 体 的 支 援					
家庭生活	進路先の生活	余暇・地域生活	医療・健康	出身学校の役割	
担当者:	担当者:	担当者:	担当者:	担当者: ○○(3年時担任)・進路担当	
連絡先:	連絡先:	連絡先:	連絡先:	連絡先: ○○○-○○○○	
内 容:	内 容:	担当者: 連絡先: 内 容:	内 容:	○○養護学校 内 容: 関係諸機関と連携をとり、本人の相談にのる。	
備考					

以上の支援について確認し、関係諸機関にこの書類を提出することに同意します。

平成 年 月 日

氏名_____

自筆・代筆
どちらかに○

羅針盤

第 37 号

平成22年2月5日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

若手教師の育成

～職場全体で取り組む人材育成のポイント～

現在、学校現場に山積する様々な教育課題に対処するために、教職員の一層の資質向上が強く求められています。特に、若い先生方が日常の業務を通して実践的な力を付けていくことができる職場環境の整備は、学校にとって重要な課題の1つです。

そこで、今回は職場における人材育成（OJT）のポイントについてまとめてみました。

POINT1 授業について語り合える場

教師にとって授業力の向上は、長い教師生活の基盤となります。「ああ、今日の授業はうまくいった」と自信を持つことが、次への意欲につながります。

特に、研究授業や校内研修会等の授業づくりに関する協議は、若手教師の新鮮なアイディアと先輩教師の経験が生かされた「より良い授業の創造」にむけた共同作業の場となります。若手教師の力は、先輩教師との自由闊達な意見交換を通して一層磨かれ培われていきます。若手教師の活発な提案が求められています。

POINT2 ミドルリーダーのアドバイス

若い先生方の中には、先輩教師からの注意をとて、も深刻に受け止めて落ち込んだり悩んだりするケースもあるようです。先輩教師は、傾聴の姿勢で若手教師の思いや悩みを受け止め、可能性を引き出すような質問等を効果的に取り入れながら、若手教師自らが課題に気づき課題解決に取り組むようコーチングの機能を生かしたコミュニケーションを図ることが大切です。若手教師を支援するミドルリーダーの効果的な一言が求められています。

POINT3 若手が伸びる組織

若手教師が持てる力を十分発揮するためには、業務の割り振りやミドルリーダーを核とした組織作りがとて重要になります。背伸びをすれば届くような挑戦的な仕事を管理職が意図的に任せたり、ミドルリーダーが積極的に若手教員の意見を取りまとめて分掌の企画・運営に反映させたりすることが、若手教師の主体性の向上につながります。若手教師が自己効力感を感じ取る明確な手立てを講じることが管理職に求められています。

～ 一番大切なもの? ～

先輩教師に求められる信・敬・慕

教える者と教わる者の間には、次の3つの条件が必要である。

1つ目は「信頼」。人は信頼している人の言に耳を傾け心を開く。先輩教師が日々の言動に責任を持ち、周囲が納得する教育実践を重ねることが大切になります。

2つ目は「尊敬」。先輩教師は信頼に加え尊敬される必要があります。若手教師に「少しでも近づきたい」と思われるためには、不断の学びによる成長が欠かせません。先輩教師の自らを高め続ける姿勢が大切になります。

3つ目は「慕わしく思われる心根」。これを生むのが先輩教師の人間としての温かさであり、優しさであり、寛大さであり、明るさであり、おおらかさです。

(植草学園大学 教授 野口芳宏)

※総合教育技術 2009. 6より 許諾を得て転載

若手教師の効果的な学びを支えるためには、実はこのような先輩教師の姿勢が一番大切なのかも知れません。
(担当・教育経営部)

羅針盤

第38号

平成22年2月12日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

体育の授業，学級活動，PTA行事等 に使える！

THE 鬼ごっこ

立春を迎えたとはいえ，まだまだ寒い季節。外に出るのが億劫になりがちです。暖房器具の少ない時代は「押しくらまんじゅう」や「鬼ごっこ」で寒さをしのいでいたものです。こうした遊びは，体を温め，遊びを通した体力づくりができるだけでなく，道具がなくても，幼児から大人まで，誰とでも一緒に楽しむことができます。



昨年11月26・27日，中学校・高等学校を対象とした運動部活動指導者等研修講座（サッカー）において，「鬼ごっこ」を主とした実技演習が行われました。講師として，岡山県作陽高等学校 保健体育部長 野村雅之先生，玉野市立荘内中学校 教諭 森慎太郎先生のお二人にお世話になりました。「鬼ごっこ」は，

空間認知能力，コミュニケーション能力，敏捷性，対人観察力，判断力

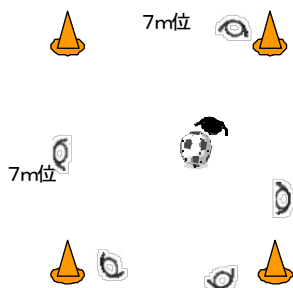
などの向上を目的に，サッカーの日本代表チームの練習にも取り入れられているそうです。

研修講座では，サッカーボールを使った「鬼ごっこ」が紹介されました。コーンとボールさえあれば，簡単にできます。その内容の一部を紹介します。

① 鬼ごっこ メイクスペース



① 鬼ごっこ メイクスペース



【場の設定】

鬼 ● 1名，逃げ手 ○ 5名
コーン4本，ボール1個

【ルール】

・逃げ手はコーンに触っていればセーフ
※1本のコーンに一人。後で触りにきた人が優先。仲間意識を持つこと。
・鬼はボールを手のひらにのせて持つ

＜OUT！＞コーンに触れていない逃げ手に鬼がタッチをすれば交代

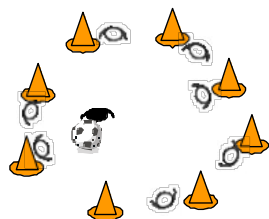
【発展】

〔逃げ手〕・鬼のすきをつき，鬼の手からボールをはたき落とす
・二人でコーンに触っていればセーフ
・二人が寝て重なればセーフ（コーンは棒として使用）
・ボールを1個入れて条件設定をする
〔鬼〕・二人ご増やす

①の「逃げ手」は，味方を助けるために，鬼との距離間を考えながらこのスペースに逃げ込み次のコーンにタッチするの瞬間に判断しなくてははいけません。味方と鬼との位置関係や空いているスペースを判断し，次に動いてほしい仲間と連絡を取り合うという複数の情報を処理することになります。このスペースを見付ける動きは，サッカーのオフense（ボールを持たない時の動き）に似ています。一方「鬼」は，入れ替わる「逃げ手」を瞬時に見極め，追いかける必要があります。この動きは，ディフェンス（マーク）に似ています。

② 鬼ごっこ カバースペース

② 鬼ごっこ カバースペース 基本その1



【場の設定】

鬼 ● 1名, カバーマン ● 7名
コーン8本, ボール1個

【ルール】

・鬼はボールを手のひらにのせて持つ
・カバーマンは空きコーンを作らない

＜OUT！＞鬼が空いているコーンにタッチしたら交代
※その原因を作ったカバーマンが鬼
その判断はカバーマン同士にさせる

【発展】

【カバーマン】・鬼から体にタッチされたら交代
・鬼のすきをつき、鬼の手からボールをはたき落とす
・二人でコーンに触っていればセーフ
【鬼】・二人に増やす(ボール各1個)
・二人でボールを1個にし、パス交換を認める(ボールを持っている鬼がタッチの権限あり)



②では①とは異なり、「鬼」が空いているコーンを狙うため、「カバーマン」は連携を取りながら空きスペースを埋めようとする動きになります。これは、ディフェンス(カバースペース)の動きに似ています。

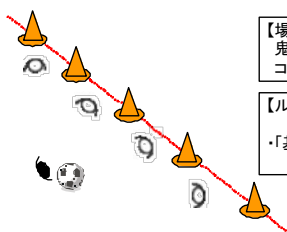
「鬼ごっこ」は、サッカーで重要視される「フェイント」動作を、自然なかたちで学ぶことができます。【発展】としてルールを増やしたり変えたりすることにより、より高い空間認知能力やコミュニケーション能力などの育成につながります。

実技演習で講師の先生が繰り返し言われていたことは、「どうすればうまくいくのか、答えを言わないこと」です。そうすることによって、子どもたちの間でコミュニケーションがしっかり交わされ、言語活動が生まれ、仲間づくりがされていくことが期待できます。

では、次に③④を紹介します。サッカーの中でどのような場面の動きに似ているのか、また、どのような力が育つのか考えてみてください。

③ 鬼ごっこ カバースペース

③ 鬼ごっこ カバースペース 基本その2



【場の設定】

鬼 ● 1名, カバーマン ● 4名
コーン5本, ボール1個

【ルール】

・「基本その1」と同じ

【発展】

【カバーマン】・鬼のすきをつき、鬼の手からボールをはたき落とす
・オフストラクション(進路妨害)を認める
・ラインより中へ鬼を入れない
【鬼】・二人に増やす(ボール各1個)
・二人でボールを1個にし、パス交換を認める(ボールを持っている鬼がタッチの権限あり)

④ 鬼ごっこ カバースペース

④ 鬼ごっこ カバースペース 基本その3



【場の設定】

鬼 ● 1名, カバーマン ● 9名
コーン10本, ボール1個

【ルール】

・「基本その1」と同じ

【発展】

【カバーマン】・鬼のすきをつき、鬼の手からボールをはたき落とす
・オフストラクションを認める
・ラインより中へ鬼を入れない
【鬼】・二人でボールを1個にし、パス交換を認める(ボールを持っている鬼がタッチの権限あり)その際にはオフサイドルールを適用する

今回は、サッカーで取り上げる練習の中から「鬼ごっこ」を紹介しましたが、「体づくり運動」や「仲間づくり」の観点から見ると、サッカー以外の領域や学級活動、PTA行事等に幅広く活用することができると思います。日本の伝統・文化として古き時代から伝わるこの「鬼ごっこ」に今一度注目してもらいたいものです。

(担当・教科教育部)

羅針盤

わかりやすく教えるための

毎日 気軽に ICT活用！ハンドブック

情報教育部のプロジェクト研究で「保存版！毎日、気軽に、ICT活用！ハンドブック」を作成しました。県内の小・中・高等学校の先生方の「日常的に、気軽に活用できるICTを使って、わかりやすく指導した授業実践事例」を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



■ Case 1 “指示” を大きく映す

■ Case 2 “動き” を大きく映す

■ Case 3 “スモールステップ” で大きく映す

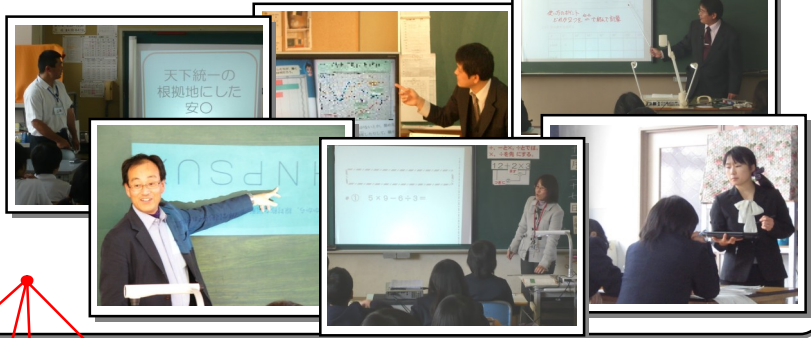
■ Case 4 “書き込みながら” 大きく映す

■ Case 5 “部分を隠して” 大きく映す

■ Case 6 “フラッシュ型教材” を映す

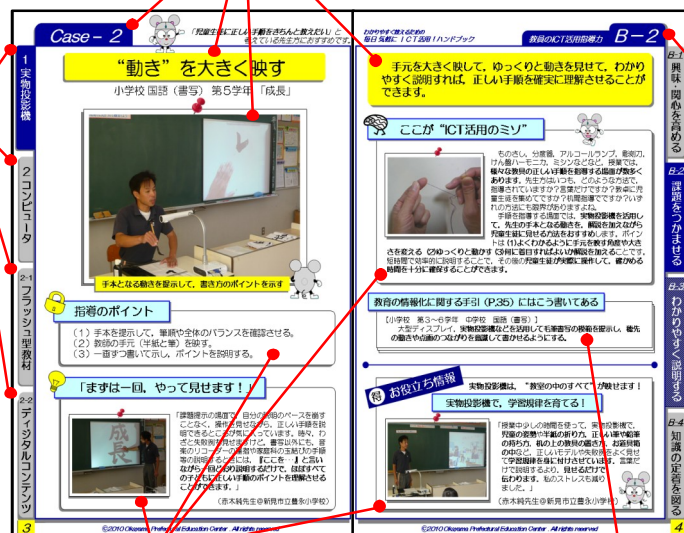
■ Case 7 “デジタルコンテンツ” を映す

7つの授業実践事例を掲載



すべての先生が活用できるICTを掲載

1. 実物投影機
2. コンピュータ
- (1) フラッシュ型教材
- (2) デジタルコンテンツ



教員のICT活用指導力を掲載

- (B-1) 興味・関心を高める
- (B-2) 課題をつかませる
- (B-3) わかりやすく説明する
- (B-4) 知識の定着を図るために活用

“先生方の生の声”や“ICT活用のミソ”を掲載

日頃、ICTを活用して指導する際のポイントや気を付けていること、便利な使い方を先生方にお聞きしました。また、情報教育部より「わかりやすく指導する」ための「秘訣」を掲載しています。

教育の情報化に関する手引の具体例を掲載

「第3章；教科指導におけるICT活用」の「第2節；教科指導におけるICT活用の具体的な方法や場面」から、関連する具体例を抜粋し、掲載しています。

羅針盤

第40号

平成22年2月26日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

新年度の生徒指導体制づくり

不登校・いじめ・暴力行為など従来型の問題に加え、自殺やリストカット、薬物濫用・ネット犯罪、目立つ問題行動もなかった子どもの突然のキレなど、新しいタイプの生徒指導上の課題が山積しています。新年度に向けて生徒指導目標の作成と共通理解、校内組織の整備などの視点も重要ですが、例年とはちょっと違った次の三つの視点から各校の生徒指導体制を見直してみたいと思います。

アセスメント力

第一に、心理的・発達の理論に基づいて、問題の見立てや対応の方針を決めるときに働かせる「アセスメント力」にかかわる視点です。個々の子どもの個別的な理解とあわせて、子どもがおかれている家庭環境や社会的背景への理解も求められます。このような情報の収集・分析の機能が校内に整備されているでしょうか。

チェックの視点（まずはここから…）

- ☐ 自分のクラスの子どものことを他の教職員に相談できる関係や場がありますか？
- ☐ 自分が担任でない学級の子どもの状態についても大まかに把握していますか？
- ☐ 養護教諭や事務職員などからも子どもたちの様子を聞ける関係ができていますか？

日々の何げない会話の中で互いの児童生徒観を交流させることで、個々の教師及び組織としてのカウンセリング力を見直す場が確保できているでしょうか。

チェックの視点（まずはここから…）

- ☐ 子どもとの何げない日常会話ができていますか？
- ☐ 子どもに「○○しなさい」「××してはいけません」と指示ばかりしていませんか？
- ☐ 問題行動やその兆候が気になる余り、目立たない子どもを見落とししたり、子どものよいところを探す余裕がなくなったりしていませんか？

コーディネイト力

第三には、子どもの問題がますます複雑化・多様化していくなかで、校内の協働体制はもとより、校外の関係機関との連携も必要に迫られています。職員間での情報共有や専門機関との連絡、チームによる支援をとりまとめる「コーディネイト力」が、生徒指導を進める上で必要になっています。このような役割を生徒指導主事個人ではなく、生徒指導部など組織としてきちんと担うことができる位置づけができているでしょうか。

チェックの視点（まずはここから…）

- ☐ 子どもたちの状態と現在の指導状況について、十分な情報交換ができる場がありますか？
- ☐ 関係諸機関の機能や役割、窓口を明らかにし、日頃から情報交換ができていますか？

カウンセリング力

第二に、困難な状況にあっても解決志向で前向きに考えたり、難しい状況のなかにもリソース（資源、解決能力）を探そうとできるような臨機応変で柔軟な対応が行えているでしょうか。日常的な指導場面や面接において発揮される「カウンセリング力」が問われているともいえます。校内研修やケース会議、

校種間連携のすすめ

ー平成21年度研究紀要「いじめや不登校を未然に防ぐための校種間連携の在り方」のご紹介ー
中1ギャップ、いじめ・不登校など、校内体制の整備だけでは対応しきれない事案も増えています。
保・幼から小、小から中への「接続」に着目して、校種を超えた連携について考えてみませんか？
詳しくはコチラ→ <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/index.htm>

(担当・生徒指導部)

羅針盤

第41号

平成22年3月5日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

理数教育の充実

～新学習指導要領～

新学習指導要領の教育内容に関する主な改善事項の一つに「理数教育の充実」が示されました。これは、国内外の調査による算数・数学、理科について学ぶことの意義や有用性を実感していないという結果も踏まえられています。理数への関心や学ぶ意欲を高め、学んだことを活用できることを目指した指導を重視するとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・表現力の育成を図るという観点から、知識・技能を活用する学習や探究する学習を一層重視することが求められています。

小・中・高を通した内容の構造化

新学習指導要領では、算数・数学は「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の四領域構成で、理科は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の四領域構成で、小・中・高等学校を通した内容の構造化が図られました。学習指導要領解説には、これらの領域ごとの内容の構成と校種・学年が、表に見やすくまとめられています。小中学校の新学習指導要領を簡単にまとめた当センターのリーフレット（http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h20/kyouka_leaf/index.htm）にも、次のように図示しています。

A 数と式	
B 図形	
C 関数	
D 資料の活用	
	〔数学的活動〕

図1 数学の内容の構造化図

	エネルギー	粒子	生命	地球
小3	エネルギーの見方	変換と保存	有効利用	粒子の存在
小4				粒子の結合
小5				粒子の保存性
小6				もつエネルギー
中1				生物の構造と機能
中2				多様性と共通性
中3				生命の連続性
				生物と環境
				地球の内部
				地球の表面
				地球の周辺
	体系	体系	体系	体系

図2 理科の内容の構造化図

各学校においては、他校種との接続や内容相互のつながりを踏まえながら、発達や学年の段階に応じて単元構想を工夫することが求められています。

「探究活動」の充実 ～高等学校理科の例～

高等学校理科では、「科学的に探究する能力と態度を育てること」が目標に上げられました。これを受け、物・化・生・地の各科目の大項目ごとに「探究活動」が設定され、理科課題研究が新しい科目として設けられています。ここでは、理科課題研究の例として、当センターが行った研究の一部を紹介します。

当センターには高速液体クロマトグラフがあり、例えば飲料中に含まれるカフェインを短時間で測定することができます。この分析機器は大学や企業では、ポピュラーなものですが、その中には先端の科学技術、高度な分析技術が使われ、機器を理解することは難解です。上の写真は、生徒が自作の模型を使って高速液体クロマトグラフの仕組みを学習している様子です。この後、生徒は本物の高速液体クロマトグラフに触れ、その仕組みやそこで使われている分析方法の概念を自分の言葉で説明することができました。

適切に模型やモデルを利用することはとても有効であり、新学習指導要領でも学習活動に、原理や法則の理解を深めるためのものづくりを取り入れるよう記されています。身近な製品や先端の技術に触れることで、子どもが有用性を感じていくことも期待できます。このような学習が可能となるよう、小・中・高を通じて系統的に科学的に探究する能力を育てることが大切です。

※詳細は「2009年度研究紀要」をご覧ください。

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h21/09-03.pdf>

(担当・教科教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>



羅針盤

第42号

平成22年3月12日(金) 発行

岡山県総合教育センター

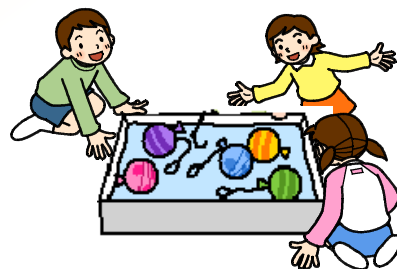
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

共生社会の基礎 ～交流で学ぶ～

特別支援学級に在籍する2年生のA君は、一人で本を読んだり、のんびりすることが好きなタイプ。自分のすることが分からなかったり、予定通りの時間で活動できないことがあったりするとパニックになることがあります。

生活科で「1年生をおもちゃフェスティバルに招待しよう」という学習に取り組んだときのことで。リサイクルの題材を活用し、2年生がおもちゃを作って招待するのです。各グループで主体的に話し合って計画・作成して進められる学習です。話し合いを中心とした活動は、支援を必要とする子ども達にとっては、見通しが持ちにくく、苦手なもの。我が子がパニックを起こさないかと不安に思われたA君のお母さんは、交流学級の授業に付き添われ、教師と児童が話し合いによって単元を構想する活動に接し、「なぜ交流学級に行かなくてはならないのか。活動の意味が分からず、じっとしているしかない我が子がかわいそうでならない。」と涙ながらに疑問を呈されました。お母さんにとっては、交流学級での授業は耐え難いことだったのです。それから約2週間、教師はお母さんと連携を図り、A君と周りの子ども達の気持ちを大切にしながら授業を進めました。

そして迎えたフェスティバル当日。A君は、他の子ども達と同じように楽しく2時間を過ごすことができました。A君の作文には、頑張ったことや嬉しかったことが生き生きと書かれていました。次の日、お母さんからの連絡帳には「息子が下級生に一生懸命おもちゃの説明をしている姿は衝撃的でした。今回の生活科の内容を聞いた時、『息子にはレベルが高すぎる』とだけしか考えられなかった私は、人間が小さくて情けなく思えます。無理なく参加できるようにいつも声かけをして下さった担任の先生はもちろんのこと、並ぶ場所が分からなくてウロウロしている息子の肩に手を添えて列に並ばせてくれたり、ゲームのルールを少し甘めにしてくれたりと自然に接してくれた子ども達にも感謝します。交流で学ぶ意味を一方向からしか見ていなかった自分が恥ずかしいです。いろんな意味で盛りだくさんのフェスティバル、ありがとうございました。」とありました。



成長している我が子に加えて、A君にかかわり合いながら周りの子ども達も学び合っている姿を目の当たりにした保護者からの正直な感想がつづられています。当然のことですが、保護者は自分の子どもが、集団の中でどのように育っていくのかを想像することは難しいものです。今回、教師はそのことをよく理解した上で、保護者と誠意を持って連携を取り合いました。A君の実態を見つめ直し、「ここまででは〇〇させたい」という願いを持って支援を提案し、実行しました。さらに周りの子ども達へも、A君の「よさ」や「ちがい」への気付きが広がるように配慮したり、2年生全体も楽しむことができるような工夫をされたりしました。

適切な指導と必要な支援によって成功したこの実践は、「教育的ニーズを把握して支援すること」や「周囲の子どもを育てること」の大切さを教えてくれています。そして、こうした支援を行いながら交流学級で学ぶ環境を整えていくことは、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の基礎となるのではないのでしょうか。

(担当・特別支援教育部)

羅針盤

第43号

平成22年3月19日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校の危機管理 —危機管理の基本的な考え方—

学校には潜在的に危険があり、思いもよらない危機が発生することがあります。そして、危機が発生した場合には、学校の対応の在り方について問題視される傾向が見られます。そのため、近年、学校における危機管理(Risk Management, Crisis Management)への対応が重要な課題となっています。

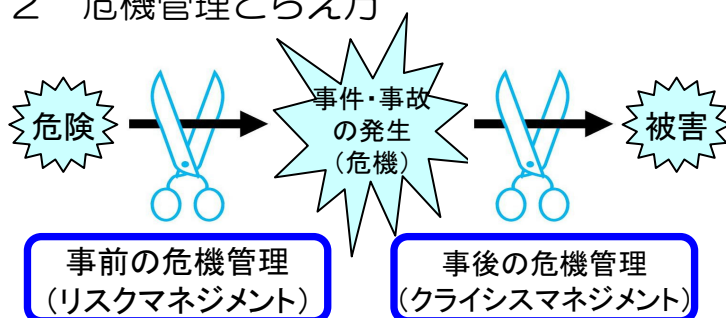
学校の危機管理において、まず第一に挙げられるものは、教職員の危機管理意識です。勤務する学校における危機を認識し、絶えず危機感を持ち続け、危機を客観的に予測できるように努めることが大切です。

そこで、今回は学校における危機管理の基本的な考え方について確認の意味も含めて紹介したいと思います。

1 学校における危機管理の目的

- (1) 児童生徒と教職員の生命を守ること
- (2) 児童生徒と教職員の信頼関係を維持し、日常の組織・運営を守ること
- (3) 学校に対する保護者や地域社会からの信用や信頼を守ること

2 危機管理とらえ方



<リスクマネジメント>

事件・事故の発生を極力未然に防ぐことを中心とした危機管理である。ここでは、早期に危険を発見し、その危険を確実に除去することに重点が置かれる。

<クライシスマネジメント>

万が一事件・事故が発生した場合に、適切かつ迅速に対処し、被害を最小限に抑えること、さらにはその再発の防止と通常の生活の再開に向けた対策を講じることを中心とした危機管理である。

3 危機管理のプロセス

- (1) 危機の予知・予測
過去発生した自校や他校の事例から、その危機発生の原因や経過等を分析・検討することにより、発生の前兆等を明らかにし、危機の予知・予測に努めること。
- (2) 未然防止に向けた取組
日ごろから、一人一人の児童生徒への継続的な支援や、施設・設備に関する定期的な点検や情報収集等により、未然防止に向けた取組を行うこと。
- (3) 危機発生時の対応
危機が発生した場合、適切な対応により、児童生徒、教職員の生命や身体の安全を守るとともに、被害を最小限度にとどめること。
- (4) 対応の評価と再発防止に向けた取組
緊急時の対応を事態収拾後に総括し、再発防止に向けた取組を実践していくこと。また、未然防止の取組についても、定期的に評価し改善していくとともに、日々の教育活動の充実に努めること。

いかがでしょうか。学校における危機管理で大切なことは、教職員一人一人がこういった基本的な考え方を理解し、危機管理意識を持つことです。今一度、自分の学校はどうか考えてみてください。

羅針盤

第44号

平成22年3月26日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

今年度をふり返って

吉備高原では、3月中旬頃から、ウグイスの澄み切ったさえずりが響いています。肌寒い日も続きますが、野山の草花や小鳥の鳴き声に春の訪れを感じる季節となりました。

さて、発刊号の所長のあいさつにもありましたように、岡山県総合教育センターでは、今年度、次の五つの行動目標を掲げて、業務を推進してきました。

- (1) 届けます…Webページや「羅針盤」などで、最新情報や研修成果を届けます。
- (2) 出かけます…サポートキャラバンやサテライト講座などで、各地域の学校や研修会に出かけます。
- (3) 支援します…カリキュラムサポートや自主研修所などで、先生方の研究・研修を支援します。
- (4) 提案します…研修講座やリーフレット、教育研究発表大会などで研究成果や実践事例を紹介します。
- (5) 磨きます…当センターの所員は、専門性の向上・人間性の向上に向け、絶えず切磋琢磨します。

当センターでは、従来の研修講座受講者アンケートとともに、今年度は新たに、各学校に依頼した外部アンケートおよび外部評価委員会(幼小中高特支、地教委および学識経験者の各代表により構成)を実施し、その結果をもとに、上の五つの行動目標に基づく事業評価を行いました。

ここでは、外部評価委員会の委員の方々からいただいた御意見をいくつか紹介させていただきます。

○「届けます」、「出かけます」等の行動目標について…

- ・「サポートキャラバン、学校コンサルテーションと、学校支援が充実している。各学校が必要に応じて利用できる。柔軟に対応していただきありがたい。」
- ・「情報発信で『羅針盤』は全教職員に回覧している。とてもよりどころになっている。」
- ・「学校の先生方の目をどのようにしてセンターの研究に向けていただくかが大切。リーフレット形式の研究成果配付には意味がある。」
- ・「センターの研究は実践的で学校現場との接点を大切にしている。教育研究発表大会も、研究に協力された先生方と一緒に発表するなど、教師・所員が相互に高め合えるシステムがあると感じている。」

○当センターへの要望は…

- ・「教育センターの生命線は広報、啓発活動である。学校はそれぞれ状況が違うので、それぞれの学校に合ったセンターの活用方法を説明してくれる資料や、活用をコーディネートしてくれる総合案内のような仕組みがあればよいのでは。」
- ・「先生方が何を求めているのかを知ることが、研修の企画・立案では大切である。先生方が、『自分達の課題に答えてくれるセンターだ』と思えることが必要である。」

○大切な問題提起の御意見もいただきました。

- ・「研修(講座内容)が、(受講者)個人のもので(学校全体に)広がらないことがあるのではないか。」
- ・「(先生方が)センターの研修で受けたことや勉強したことを、子どもや学校に還元して欲しい。研修してきた事項の(校内)発表会をしている学校もある。」

岡山県総合教育センターでは、来年度も、これらの御意見や各種アンケート結果を貴重な資料として活用させていただきながら事業改善に取り組み、五つの行動目標に基づいた学校支援に邁進いたします。

来年度の「羅針盤」は4月9日(金)から配信を開始します。引き続いて御活用ください。